一般社団法人茗渓会

茗渓

正月
2019
平成31年
no.1100

一般社団法人茗渓会 創基150年 さらなる躍進へ!

目次

■ グラビア …… 01 ～ 02
■ 新年のご挨拶　茗渓会理事長　江田昌佑 …… 03
■ 年頭挨拶　筑波大学長　永田恭介 …… 04
■ 謹賀新年　平成 31 年　今年もよろしくお願いいたします …… 05
■ 第２回産業人倶楽部 報告 …… 06 ～ 07
■ 茗渓・筑波大学産業人会 …… 08 ～ 09
■ 筑波大学の進路状況 …… 10 ～ 11
■ 箱根駅伝復活プロジェクト報告 …… 12 ～ 13
■ オリンピックにおけるセーリング（ヨット）競技について …… 14 ～ 15
■ 茗渓ソフトテニス 130 周年を祝って …… 16
■ 筑波大学軟式野球部 OB 会 30 周年大会 …… 17
■ 茗渓・東西南北 …… 18 ～ 19
■ 筑波大学はいま …… 20
■ 茗渓学園だより …… 21
■ 桐の葉のつどい …… 22 ～ 23
■ 著書紹介 …… 24　■ 追悼録 …… 25
■ 平成 30 年秋の叙勲 おめでとうございます …… 26
■ 広報 …… 26　■ 表紙のことば …… 26　■ 編集後記 …… 26
■ 茗渓人として知っておきたい噺 …… 別刷（保存版）

島のある風景　古宇利島（撮影：沖縄茗渓会　前門　晃）

Juchheim
SEIT 1909

日本のバウムクーヘンの歴史は
ユーハイムから始まりました。

まっすぐなおいしさ

日本で初めてバウムクーヘンが焼かれたのは1919年(大正8年)のこと。
創始者カール・ユーハイムの焼きあげたバウムクーヘンへの想いは
今も変わらず、職人から職人に受け継がれています。

ユーハイム®

www.juchheim.co.jp/juchheim
〒650-0046 神戸市中央区港島中町7-7-4
お客様係 TEL 0120-860816（ハローハイム）
受付時間：平日（月～金）9:30～17:00（年末年始を除く）
携帯電話・PHS からはご利用いただけません。

食の提供
（アウトソーシング）

社員食堂 / 寮・研修所・保養所・研究施設 /
学生食堂 / レジャーレストラン / カフェ

お仕事に、勉学にがんばる皆様を食事面からサポートいたします。
空間づくりなども含めた委託運営を行っています。

学生食堂
～学校ブランドを高める空間づくり～

学生の皆様にとって、大切な思い出の一つになる学生食堂。
学校それぞれの教育方針に沿って運営を行いながらも、
学生層に合わせ、トレンドを意識したメニューをご用意。
カジュアルさとおいしさで好評をいただいています。
また、売店の運営やスクールバスの運行など、トータルでの
サポートも可能です。

寮・研修所・保養所・研究施設
～やすらぎと栄養バランスを考えた食事提供～

各施設の運営方針やご利用者様の年齢層に応じたメニューを
提供。栄養バランスを考慮した食事を提供するだけでなく、
研修施設では研修期間や日程などの利用状況に対応した運営を
心がけ、「食」を通じて家庭にいるような安らぎを提供すること
を目指しています。食事以外にも、施設管理全般にわたる管理
業務も行っています。

はぐくむ、大切なことのすべて
SHIDAX

シダックスフードサービス株式会社

〒160-0021　東京都新宿区歌舞伎町1-17-10 シダックス新宿セントラルロード
TEL.03-6632-5052（代表）

KAIT

力と自信がつく教育で
「考え、行動する人材」を育成します。

■工学部	機械工学科(航空宇宙学専攻含む) 電気電子情報工学科 応用化学科 臨床工学科
■創造工学部	自動車システム開発工学科 ロボット・メカトロニクス学科 ホームエレクトロニクス開発学科
■応用バイオ科学部	応用バイオ科学科 栄養生命科学科[管理栄養士養成課程]
■情報学部	情報工学科 情報ネットワーク・コミュニケーション学科 情報メディア学科
■看護学部	看護学科

理 事 長　中部謙一郎
常務理事　河野　隆二（S47農）
監 査 室　矢野　正人（S53院修 農）（神奈川茗渓会　会長）
教職センター　大畑多津雄（S52理　数）（　同　副会長）
教職センター　望月　正大（S51理　数）（　同　副会長）
早期学生支援室　掛原　豊（S54農林学類）

神奈川工科大学
KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
〒243-0292　神奈川県厚木市下荻野1030
TEL.046-291-3002　URL:http://www.kait.jp/

茗渓・筑波産業人倶楽部　第２回意見交流会

平成 30 年 12 月 15 日 （P.6～7 参照）

演奏を披露した筑波大学アンサンブル

茗渓・筑波産業人倶楽部 意見交流会スナップ

江田理事長挨拶

来賓　佐藤副学長・金保副学長

ボードに貼られた筑波大学の写真

新年のご挨拶

一般社団法人 茗渓会
理事長
江田　昌佑

新年明けましておめでとうございます。

全国会員の皆様のますますのご健勝とご活躍を心から祈念いたします。

昨今、各地で大きな自然災害が発生しています。現在でも不自由な日常の方々がおいでの事と思います。心からのお見舞いを申し上げます。

今年こそ災害のない平穏な日々であることを祈ります。

さて、今年はわが国にとって大きな出来事があります。天皇陛下ご在位30年の慶祝行事が続きます。4月30日の今上天皇のご退位、5月1日の新天皇のご即位、そして改元の新しい時代を迎えることになります。

われわれは等しく皇室の弥栄と世の安寧を祈念するものであります。

片や、スポーツの祭典といわれる大イベントが間近になりました。ラグビー・ワールドカップが程なく、来年には東京五輪・パラリンピックが開催です。

アスリート、役員や運営に多くの茗渓の仲間が関わります。今から期待で胸がわくわく高鳴ります。

わが国の教育白書（'92年10月）に「スポーツは人間性を育む人類共通の文化」と述べています。これらのイベントを通じて、生きる力、喜ぶ力が世界の人々に感得される機会になるでしょう。

正月の箱根駅伝に筑波大学生の相馬崇史君が第5区を走る予定です。学連選抜チームの一員としての出場ですが、彼の激走を期待したいと思います。大学チームとしての予選会通過にはあと一歩のところまで来ています。われわれも期待と激励を送り続けたいと思います。

駅伝沿道で、神奈川茗渓会をはじめ茗渓会会員の方々が幟を持って応援して下さることはまことに嬉しいかぎりです。

本年のＮＨＫ大河ドラマは〝イダ天＝東京オリンピック噺〟です。嘉納治五郎校長、金栗四三さんなど茗渓に縁の人物が中心として登場します。このドラマを通して、東京高師の当時の学園の雰囲気や学生気質などが窺い知ることができるであろうことも興味のあるところです。たいへん楽しみです。

箱根駅伝は金栗四三さん、野口源三郎さんなどによって創設されたもので、第1回は東京高師が優勝しています。

第１回箱根駅伝優勝写真

さて、茗渓創基150年記念事業につきましては、現在募集している企画等について、記念実行準備委員会が、会を重ねながら鋭意検討を加えています。

具体の企画のアウトラインは通常総会に提示する予定です。

その前倒し事業のひとつ、産業人等の連携を意図した茗渓・筑波産業人倶楽部は昨年七月に発足しました。（詳細は『茗渓』秋号No.１０９９に記載）本会にとって懸案になっていた、教育界以外の同窓に大きな柱を立てることのスタート地点に達したことになります。

もうひとつの前倒し事業、占春園再生プロジェクトは、外部との種々の折衝も円滑に進み、一月より具体的な作業に入る運びになっています。

通常総会の挨拶の中でも、この記念事業の意義について述べました。すなわち「われわれ茗渓人は、本会が時代を乗り越えて連綿と活動し続けてきたことに最大の敬意を表すとともに、先達の高邁な志や誇り高き伝統に思いを馳せ、レガシーを大切にして、はたまた、将来に亘り本会の新たな発展を期して、茗渓創基150年の意義ある記念事業を興すことにあります。茗渓の仲間に役立ち、より絆を深める互助の事業として、また、次世代への継承の事業として計画を進めるものであります。」

事業の中心となる時期を２０２２年に置き、約４年間に亘って諸計画を進めて参ります。

この茗渓創基150年記念事業は茗渓会あげての行事でもあります。本会々員こぞって自らの力を結集する必要があります。総意を練りあげていく中で、情熱と誠実さ、そして共助の精神が源泉となりましょう。この在り方こそが、茗渓会の絶大な遺産の価値を更に将来に向って高める機会になると信じています。

有り難いことに会員の多くの方々から本会に対し、殊に150年記念事業に関して、激励や助言などを頂戴しています。その度に感謝とともに身の引き締まる思いでおります。そして無限の希望を与えていただいています。

最後になりますが、全国茗渓会々員の皆さまに対し、本会の益々の発展のために、ご鞭撻ご協力を切望してご挨拶といたします。

年頭挨拶

筑波大学長
永田　恭介

明けましておめでとうございます。

旧年中は、茗渓会の皆様には様々なご支援をいただき誠にありがとうございました。

大学の役割が各方面から問われ、語られています。特に、国立大学に対しては大きな期待とともに様々な批判も寄せられています。新制国立大学は、全ての都道府県に少なくとも一つの国立大学を設置し、国民に高等教育を受ける機会を均等に供するとの理念のもと、１９４９年に発足しました。国立大学は、戦後の経済復興から続く我が国の発展を牽引する人材を多様な分野にわたって輩出してきました。国立大学が我が国の全てのノーベル賞受賞者を生み出してきたことに見られるように世界最高水準の研究を推進するとともに、大都市だけでなく全ての地域の均衡ある成長に貢献してきました。

本学は、このような国立大学の役割を果たしつつ、加えて従来の国立大学では進まなかった改革を牽引する使命を持っています。そして、今、将来の我が国のあるべき姿を見据え、持続可能な開発目標ＳＤＧｓやSociety 5.0、第4次産業革命、人生100年時代、グローバリゼーション、地方創生などの諸課題の解決に貢献すべく、迅速かつ大胆な改革にその最前線で取り組んでいます。

国の借金はとどまるところを知りません。その中で、大学活動の基盤をなす運営費交付金の削減も止まりません。毎年、基幹経費部分が削減される中、教育研究での顕著な実績と活動を通じて、プロジェクト型の経費を獲得しながら、従前の水準の運営費交付金を調達しているのが現状です。このような中、スーパーグローバル大学創成支援事業と研究大学強化促進事業という2つの大きな事業の中間評価では、前者ではＳ評価、後者ではＡ評価を得ました。また、平成23年度採択の博士課程教育リーディングプログラムが事後評価を受け、本学のヒューマンバイオロジー学位プログラムがＳ評価を受けました。これらは本学の強みである「国際性」と「学際性」がいかんなく発揮された結果だと考えています。

財政問題もさることながら、我が国の少子化は深刻な課題です。２０１８年以降、18歳人口が増えることはありません。人口増加に転じる有効な策も見当たりません。しかし、我が国における知的基盤社会を支えるためには一定規模のこれを担う人材数を育成していかなければなりません。これらの容易には変えることができない難題を、教育の改革と教育研究活動を支える財務改革の両輪で打開していかなければなりません。

教育に関わる改革はまったなしの状況です。18歳人口の減少問題については、現在のままの教育体制、特に入学者選抜方式だけでは入学者層の能力の低下を招きます。現在の水準あるいはそれ以上の水準の学生に入学していただくためには、これまでの入試とは異なる方法でこれまでに発掘されてこなかった能力を持つ学生を選抜すること、これまでの日本人18歳を中心とした対象者以外に大学の門戸を開くことなどが考えられます。最初の観点からは、入試の方法を変えていく方策が考えられます。実際、平成33年度（平成32年度実施）の個別学力検査（前期日程）の一部においては、学類別ではなく、大括りした分野での入試を導入します。この方式を導入することで、低学年時のカリキュラムも改革されます。すなわち、広く募集し、広く学んだ学生が望む専門分野を探しやすくするための工夫を導入することになります。後者については、よりいっそうの優秀な留学生の獲得と有能な社会人の募集を行う必要があります。我が国の知的基盤を支える人材として、専門分野の卓越性のみならず、日本語に堪能であり、日本の文化・伝統を理解した外国人学生を育成する教育課程の充実を計画しています。また社会人に対しては、2度目、3度目の社会貢献が可能な能力開発を目指すリカレント教育の充実が重要です。

運営費交付金が削減される中、自由で闊達な教育研究を推進するためには運営費交付金以外の資金調達が必須です。そのためには、未来創造に欠くことができない新たな学術研究分野を創成すること、また社会課題を解決する科学技術に関する研究分野を強化することなどが考えられます。Society 5.0の考え方を進めるにあたり。たとえば、一昨年4月に設立された人工知能科学センター（C-AIR）を中心に、基礎研究、応用研究ならびに社会実装のための開発研究を推進する日米の相当数の大学および産業界によるコンソーシアムの立ち上げる計画が進んでいます。また、外部資金獲得で大きな成果をあげつつある産学官連携活動を強化するとともに、大学への投資の呼び込みと法的に規制緩和された大学の資金運用の幅を広げていきたいと考えています。更に、今年の秋には大学が9年間に亘って開催を続けてきた研究ショウケースの役割を含む国際会議ＴＧＳＷ（Tsukuba Global Science Week）を基盤に本学とつくば研究学園都市の役割を世界に発信する機会として、世界の若手研究者や学生、あるいは企業がつくばに集まり、社会と科学に関する問題を議論する「筑波会議」を開催いたします。

こうした活動を含めてここでは紹介できなかった各方面で、今年も学生、教職員は持てる力を大いに発揮していこうと決意しています。伝統ある貴会と同窓生諸兄には、ますますのご発展を祈念申し上げますとともに、本学の様々な活動にご理解をいただき、本年もご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

謹賀新年

一般社団法人
茗渓会

平成31年　今年もよろしくお願いいたします

一般社団法人 茗渓会 理事長 江田昌佑 （昭和30年卒教大体） 〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23 TEL 03-3491-0136	一般社団法人 茗渓会 副理事長 井口武雄 （昭和40年卒東京教育大学法政） 三井住友海上火災保険㈱ 〒101-8011 東京都千代田区神田駿河台3-9 TEL 03-3259-3111	一般社団法人 茗渓会 副理事長 日本体育大学 教授 教育学博士 阿江通良 （昭和48年卒教大体育） 日本体育大学 〒158-8508 東京都世田谷区深沢7-1-1 TEL 03-5706-0826 E-mail:ae@nittai.ac.jp
一般社団法人 茗渓会 事務局長 髙野力 （昭和48年卒教大木工） 大塚事務所長 室岡和彦 （昭和44年卒教大数）（平成1年卒筑修教） 筑波事務所長 立山雅博	一般財団法人 筑波学都資金財団 理事長 田中正造 （昭和36年卒教大・健） 〒305-0005 つくば市天久保1-13-5 TEL 029-851-5152	学校法人 茗渓学園 茗渓学園中学校高等学校 国際バカロレアDPコーススタート 理事長 中川喜久治 校長 田代淳一 （昭和59年筑波大修士教育研究科・理科） 〒305-8502 つくば市稲荷前1-1 TEL 029-851-6611
一般社団法人 茗渓会 理事 組織委員会委員長 川田孝一 （昭和39年卒教大総農） “茗渓・筑波産業人倶楽部が発足しました。産業界を中心とした仲間の集いです。次回は、２月16日に開催を予定しています。多くの仲間の参加を期待しています” 〒194-0045 町田市南成瀬5-29-6 TEL 042-728-5423 連絡先 桜美林大学入試事務室 相談役 TEL 042-797-6196	一般社団法人 茗渓会 理事 田代淳一 （昭和57年卒横浜国大 昭和59年卒筑修教） 〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23 TEL 03-3491-0136	一般社団法人 茗渓会 理事 広報委員会委員長 早川源一 （昭和51年卒教大東洋史） 〒312-0034 茨城県ひたちなか市堀口592-10 TEL 029-276-9456 連絡先 独立行政法人教職員支援機構 TEL 029-879-6984
一般社団法人 茗渓会 理事 宮尾徹 （昭和54年卒筑二農林） 〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23 TEL 03-3491-0136	一般社団法人 茗渓会 理事 百瀬明宏 （昭和55年卒筑一人文） 〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23 TEL 03-3491-0136	一般社団法人 茗渓会 理事 矢野正人 （昭和53年卒教大院修農） 〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23 TEL 03-3491-0136
一般社団法人 茗渓会 岩手支部 支部長 佐藤有 （昭和58年卒筑二農林） 事務局長 清水茂幸 （昭和59年卒筑体） 〒020-8550 盛岡市上田3-18-33 岩手大学教育学部清水（茂）研究室内 TEL（019）621-6584 s.shimizu@iwate-u.ac.jp	一般社団法人 茗渓会 福井支部 支部長 畑中正美（昭和56年卒筑一自） 福井県立武生工業高等学校 校長 事務局長 橘慶成（平成８年卒筑芸） 福井県立美方高等学校 事務局：〒919-1395 福井県三方上中郡若狭町 気山114-1-1 美方高校内 TEL 0770-45-0793	一般社団法人 茗渓会 滋賀支部 支部長 町田登 （昭和47年卒教大健） 事務局長 藤江隆史 （平成８年卒筑体） 〒521-1124 彦根市野良田町264-18
一般社団法人 茗渓会 鳥取県茗渓会 支部長 小倉健一（昭和53年卒筑体） 国立大学法人鳥取大学 特命教授 事務局長 出雲大輔（平成24年卒筑体） 福部未来学園 教諭 〒689-0103 鳥取市福部町高江188 福部未来学園内 TEL 0857-75-2004	一般社団法人 茗渓会 山口茗渓会 支部長 吉本晃（昭和54年卒筑二人間） 事務局長 藤本秀夫（平成15年卒体育修士） 〒755-8560 宇部市文京町1-25 TEL（0836）35-9574 （宇部フロンティア大学付属香川高校） 本年度の山口支部総会は10月12日、 大勢の参加を！	一般社団法人 茗渓会 鹿児島茗渓会 支部長 原口和哉（昭和56年卒筑一自然） 鹿児島県立加治木高等学校 校長 事務局長 鹿倉貢（昭和57年卒筑体） 鹿児島県立鹿児島南高等学校 校長 〒891-0141 鹿児島県鹿児島市谷山中央8-4-1 （鹿児島南高校内） TEL 099-268-2255

第2回「茗渓・筑波産業人倶楽部」

――連携への確かな一歩を

2018年12月15日(日)午後1時から茗渓会館において、7月22日(土)に続く第2回目の「茗渓・筑波産業人倶楽部（以下、産業人倶楽部）」が開かれました。茗渓会では「教育界にある太い柱と並ぶ産業界の太い柱を作りたい」という趣旨と、総合大学となり半世紀を迎えようとしている筑波大学の学生の支援をしたいということで、活発な意見の交流が行われ、第二部の懇親会では盛んに異分野交流が行われました。学生10名を含め70名余の先輩、後輩が和気藹々と交流しました。

今回は、第一部の意見交流会の様子についてお知らせします。

◆江田理事長と佐藤副学長からのご挨拶

まず会の冒頭で、江田昌佑茗渓会理事長と佐藤忍筑波大学副学長からご挨拶がありました。

●江田理事長「仲間の結集と継続が大切」

いつも茗渓会の活動にご理解、ご協力を頂き感謝いたしております。また今回、7月に続く第2回目の産業人倶楽部となりますが、多くの方々にご参加頂きまして感謝いたします。本日は、皆様からの卓越したご意見を楽しみにしております。茗渓会としては、これまでの教育界における大きな柱と並んで、新しく社会人が連携できる組織ができることを嬉しく思っています。将来数十年後に振り返ったとき、この会ができて本当に良かったと言われることは間違いないと確信しています。

茗渓の先輩の一人に、東京高等師範学校（東京高師）英文科出身で、のちに東急の実質的創業者になられた五島慶太さんがおられますが、東京高師時代、嘉納治五郎先生の倫理の講義を毎週受けたそうです。嘉納は毎時間、何くそという不屈の精神の話しをされたが、一年間聴き通してそのいわんとすることが理解できたといいます。東京高師卒業後、東大で学んだり、様々な経験をして38歳で企業人となりました。それまで学んだうち、「何くその不屈の精神」だけはしっかりと残っていて、自分の心底の半分は嘉納治五郎の教えであると言っています。

五島氏のように、同じ茗渓で学んだこれだけの友人、仲間に今囲まれています。これを結集すれば大変な力になります。この会は発足して間もないですが、いかに継続していくか、どこまで広めていけるかが鍵だと思っています。皆様のご協力を期待しています。

●佐藤副学長「参加することによって、学生の鼓舞を」

現在の筑波大学の卒業生の進路をみると、教員になる者はぐっと少なく、ほとんどが企業への就職となっています。それに対し、一つは茗渓会の「筑波みらいの会」で起業家として成長しようとする学生を支援して頂いています。これに参加している学生は、かなり独自性のあるメンバーですが、もっと普通の学生の支援もと考え、10年ほど前から「T－ACT」で学生の支援をしてきています。これまでは、金銭的な支援はしていなかったのですが、今年からは、人件費も込みにしていいということにしました。

本日は、本学の学生が10人ほど参加しています。学生には、もっと積極的にこの会に参加したり、ネットワークづくりをしたりしてほしいと考えています。先輩の有様をしっかり目にしたり、先輩のネットワークに入れて頂いたりして、学生たちを鼓舞したいと考えていますので、宜しくお願いします。

◆第一部　意見交流

・コーディネーター　廣田則夫（日立建機教習センター社長）

・意見表明者　河本　武（ユーハイム会長）
　佐藤順一（カクヤス社長）

●自己紹介

――まず、お二人の自己紹介を簡単にお願いします。

・河本　武〈「半学半教」の精神で〉

昭和37年に東京教育大学を卒業し、大学院修了後、ユーハイムに入社しました。入社に当たり、禁煙、外国語に精通、商人になる覚悟、税理士の資格取得の条件をクリアしました。吉田松陰の「半学半教」の精神、すなわち、教育はともに学ぶ精神が大切ですので、今回も皆さんとともに学んでいきたいと考えています。

・佐藤順一〈継ぎたくなかった酒屋を継ぐ〉

子どもの頃から親には酒屋を継げと言われ続けてきたので、酒屋だけはなりたくない、家から出たいと思い、家から通えない大学の筑波大学を選択しました。4年間潤沢な仕送りを得て快適な大学生活を送りました。親の軍門に降るようでなかなか酒屋を継ぐとは言えず、やっと2月頃にカクヤスに入ると告げました。「酒が強いか、力が強いか」が採用基準だったが、大学のパワーリフトクラブで全国制覇したので力には自信がありました。

●私の失敗談、成功談

――これまでの企業経験のなかで、失敗談や成功談をお聞かせ願います。

・河本　武〈まず状況判断から、人の力が大事〉

入社してドイツ留学から帰国すると、すっかりドイツかぶれして、商品となる菓子の名前を何でもドイツ語のネーミングにすることにしましたら、それまでの社員たちから猛反発、総スカンを受けました。その後、中学卒業の若者にもドイツ語の基礎を教え、ドイツに菓子作り修行の派遣をするようになってからは、社員も次第に納得するようになりました。このことから、いくら正論でも状況判断をしっかりせずにやると失敗すると言うことを学びました。

よく「実力3分運7分」といいますが、よき先輩との出会いが大切です。筑波大学生には、ぜひ良い先輩に出会えることを祈っています。茗渓出身者は、地頭が良いので、出世して階段を上るほど実力を発揮する傾向があります。ぜひ出世して大きく羽ばたき、重役どころか多くの社長を出してほしいと願っています。

我々の業界は「のれん業界」と言われています。デパートに入ったときは皆同じ規模でスタートしましたが、その後の50年で私の会社は失敗もいろいろあったなかで、他を圧倒して何とか100倍の規模になることができました。それは、人の力によるものだと痛感しています。

・佐藤順一〈市場調査が大事、よき右腕を〉

我が社は、お酒をお届けするという商いを売りにしている会社で、主に飲食業の店に納めていました。丁度バブルの時期にどんどん開店した店を次々に開拓していきましたが、バブルが崩壊すると、開店したての店から潰れていき、大変でした。

また、お酒のディスカウントショップをやりたくて、店中の反対を押し切ってオープンしました。ディスカウントショップの競争相手は郊外型の大型店だと思い、当時車も入れないような狭い道沿いに店を構えていたので、勝つために配達を始めました。ところが、オープンしてみると予想外に多くの来客があって驚きました。それは、そのエリアにディスカウントショップがなかったからだと気づきました。競合店や市場調査などしっかりやっておけば、しなくてもよい心配をしていたことに気づきました。しかしながら、このとき始めた配達が今でも店の売りになっていることは、何が幸いするか分からないと言うことです。

入社したてのときは、「理屈っぽい」とずいぶんいじめられました。ときには、ストライキで誰も出勤しないこともありましたが、負けるもんかと一人で必死にやりきったら、反対派の中心人物が逆に自分を認め、今度は右腕というべき存在になったので、他の社員たちも協力してくれるようになりました。一人でもしっかりした仲間を作ることが大切だと思い知りました。

ただし、右腕になってくれた人はいつまでも右腕のままではいられません。企業が成長していき、組織化していくなかで、今までの右腕を切らなければならないこともでてきます。苦楽をともにしてきた人を切ってでも、組織を守ったり成長させたりしなければならないときが、経営者としては一番辛いものでした。

●後輩に残したいこと

――後輩たちに、ぜひとも言っておきたいことは何かありますか。

・河本　武〈卒業生の仲間づくりを、笑顔が大事〉

茗渓会は、筑波大学の応援団だと思っています。一つには、筑波大学の教職員と学生に対する支援を行いたい。もう一つは、産業人との連携をとって世の中のためになる存在になりたいと考えております。今や、筑波大学の卒業生の9割が産業人になっています。それなのに、組織化しないのはおかしいです。他の大学のように卒業生の仲間づくりをして、エンカレッジしたいと強く思っています。

私は、筑波大学体育科学研究奨励賞として毎年3人表彰しています。これまで30年間で90人が受賞していて、偉くなっている人も出ています。

今後、就職する学生に産業界の説明をする機会など、学生との接点を持ちたいと考えています。筑波大学の学生は真面目すぎて愛想が悪い傾向があるようです。就職面接では最初の4秒間の印象面接が決定的なので、笑顔が大切だというような話をしてみたいと思います。

・佐藤順一〈周りをよく見る、人脈が大事〉

私が入社したときは、誰も知っている人はなく、誰も頼りにならず、全く独力でやってきました。当時は、銀行が金を貸してくれないと何もできなかったのですが、今はいろいろなところから支援が集まる時代になっています。起業しようと考えている人のために何か役立ちたいと考えています。「筑波みらいの会」もその一つなので活用してください。

仕事をしていく上で人脈はとても大切なので、人脈を広げられるシステムができるといいと思います。学生の皆さんは、先輩の人脈を活用してほしいと思います。

●学生からの意見

――本日参加している学生さんの方から、何か希望等を話してみてください。

・古畑　翼　大学1年から茗渓会の筑波事務所でアルバイトしています。学生の友人の様子を見ると、茗渓会の存在は余り認知されていないのが実態です。教育大学までの茗渓会の人脈はすごく強力なので、学生にも日常的に繋がる機会ができるといいと思います。

・長谷川輔　筑波大学管弦楽団所属です。会社に入った直後の動き方などを知りたいです。

・松本悠路　就職活動に役立つ情報を、いつでも見られるようにHPに載せて頂けると嬉しいです。

・西　美佳　大学の校舎の老朽化が激しく崩落事故なども起こっているので、改修の支援をして頂けると嬉しいです。また、東京で演奏会を開く際には、切符購入などの支援をお願いしたいです。

――ここまで貴重なご意見ありがとうございました。茗渓の人的資源を有効に活用したいと思いました。今は産業人が教員になったりもしています。色々と幅広く交流していきたいと思います。次回以降もこのような機会を持ち、有効な活動としたいと思います。

佐藤順一氏、河本　武氏、廣田則夫氏

【茗渓・筑波大学産業人会】

――もう一つの産業人の連携の試みから――

東京茗渓会では、毎月の第3水曜日の夕方に有志が集い、「茗渓・筑波大学産業人会」として、筑波大学を卒業して各界に進み、それぞれの分野で活躍している仲間が、それぞれの仕事について話題を提供し、交流を続けています。毎回バラエティに富んだ内容が話され、刺激的な異分野交流が展開されるので、多忙な時間をやり繰りしながら一定数のメンバーが集い、すでに30回以上続いています。

茗渓会本部では、今般7月に「茗渓・筑波産業人倶楽部」が発足し、12月には第2回目も行われましたが、茗渓会の中で、教育界に並ぶもう一つの柱である産業人の連携の試みが東京でもなされているわけです。

各回提供される話題も魅力的な上に、実際に働いてみての体験談ですので、今後就職を考えている筑波大学の学生にとっても興味深い内容もあると思いますので、そのエッセンスを報告します。今回は、特別養護老人ホームの施設長をされている平嶋佳裕（昭55筑一人文）さんとJリーガーから弁護士になられた武田健太郎（平16体専）さんの報告をします。なお、前者は、学生の古畑翼（筑大比較文化学類四年）君にお願いしました。

【老人介護施設の現状と今後＝平嶋佳裕】

●民間企業をやめて社会福祉士に

平嶋佳裕（写真中央）さんは、昭和55年筑波大学を卒業した後は、民間企業で経理の仕事を8年ほどしていました。退職後、ボランティアの経験を経て、平成11年に社会福祉士の資格を取得しました。その資格を活かして今までとは違う道を模索する中で、2年前に社会福祉法人石心福祉会特別養護老人ホーム・オリーブの施設長に任命されました。この2年間施設長として働くなか、実際に施設を利用されている方々が、体が不自由になりながらも、毅然として自分としての生き方を貫く「生き様」を見る中で、その生き方に感銘を受けたということです。

施設の中で仕事をしていく上で、介護スタッフとしては本人の意思を第一に尊重しつつも、周りを支え、ともに生活していく者としてお互いに意思決定を図ることが重要だと感じているということです。

●鍵は、健康寿命と介護人材

当日、参加者にアンケートをしました。

「『老後の生活』を考えたときに、あなたはどのような状況になることに強い不安を感じますか？」という質問に対して、「病気がちになり、日常生活に支障を来たす」「寝たきりになる」という回答が多く寄せられました。

これに対し、「人の手を借りなくても生活できる『健康寿命』は、平均寿命より男性だと8歳、女性だと12歳ほどマイナス」と言われていますので、この『健康寿命』をいかに伸ばしていくかが重要になるということです。

また、2040年には高齢化がピークを迎えると言われておりますが、もっとも懸念される介護人材の不足という課題については、「ロボットや外国人労働者に頼るという現実も見えつつありますが、今後、学校教育の現場でも積極的に福祉人材を育てる取り組みに力を入れる必要があります。これらの課題に対応していくためには、国民が介護報酬の財源となる介護保険料の負担にどう耐えるのかが懸念されます。」と話されていました。

●介護保険制度の動向に注視したい

また、介護離職の問題等を取材する中で平嶋さんとお知り合いになったという**朝日新聞文化くらし報道部の有近隆史**（写真左）さんにもお話していただきました。

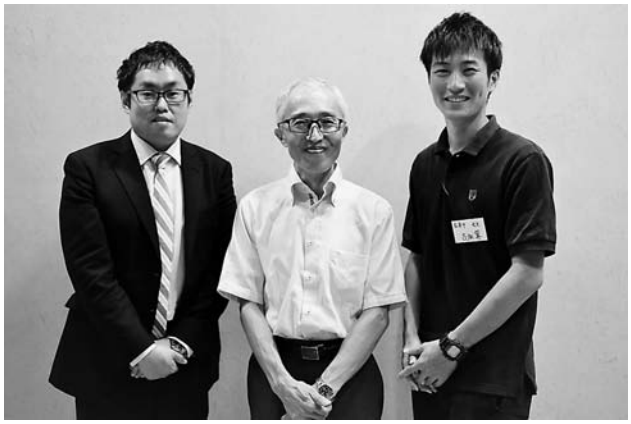
18年前に介護保険制度が導入された背景には、「介護の社会化」、つまり家族だけではなく社会全体で介護負担を分担しようという考え方があったのですが、最近それが揺らぎ始めています。介護保険料が高騰する中で、国民の負担を減らすためには、サービスを縮小しなければならず、それは再び介護を家族のものへと戻すという状況になりつつあります。そういった視点で今後報道を見てもらえると身近な問題として感じられるのではないか、ということでした。

●特養と老健との違いは

話題提供後の質疑応答では、「特別養護老人ホーム（特養）、有料老人ホーム、老人保健施設（老健）のおおまかな違いは何か」という質問が寄せられました。

それに対し、「特養は社会福祉法人じゃないと設置できない公的なもので、要介護度が3～5の人じゃないと入所できません。有料老人ホームは民間企業が運営している施設です。老健はその中間的な位置づけで、例えば自宅で生活できない方が少しでも生活できるようにリハビリをして、次の方策を探るためにある施設です。」と、分かりやすくお話していただきました。

学生としては、将来に向けて避けて通れない課題が山積している介護のことについて、まだ実感が薄いながらも、今回のお話を聞いて、若い世代がどう高齢者の方々を支えていくべきか日々関心を持つことの重要性を感じました。



【Jリーガーから弁護士へ＝武田健太郎】

●筑波大学体育学群から銀座の弁護士へ

昭和56年千葉県浦安市生まれの武田健太郎さんは、3年前から銀座に事務所を置く新進気鋭の弁護士です。

学習院初等科から高等科まで受験なしのエスカレーターで進学したのち、筑波大学の体育専門学群に入学しました。

小学校時代の野球に代わり、中学時代からサッカーを始め夢中になりました。テクニックよりは馬力型のフォワード（本人談）で、めきめき実力と自信を高めたので、全国でトップレベルのサッカーをやりたいと筑波大学進学を決めました。だが、大学蹴球部に加入して2ヶ月で、「井の中の蛙」だったことを知らされました。長距離走でもテクニックでも、全く他の部員に及ばず落ち込みましたが、努力を続け、ついに180人の部員がいる中で2年からトップチームに入り、3年時と4年時にはインカレで全国制覇ができました。この黄金期に在籍できたことは本当に幸運でした。

大学卒業後は、JFLの横河武蔵野FCに入団しましたが、サッカーだけの生活に限界を感じるとともに、サッカー界に法的な支援の必要性も感じて、一念発起して弁護士になることを決意しました。

サッカーで日本一になったので、次は日本一難しいという司法試験にチャレンジしようと思いました。それまで法律については全く勉強したことがなかったのですが、当時できた法科大学院の制度を活用して、日本大学大学院法務研究科に入学し、とにかく勉強しました。その甲斐があって、奥様や周りの支えもありついに2回目の挑戦で合格しました。

弁護士登録後、銀座にある法律事務所に入所し、いわゆるマチ弁として2年間勤務したのち、四谷に事務所を開き独立しました。やがてどうしても銀座に事務所を持ちたいという気持ちが強くなり、3年前に思い切って銀座に事務所を開きました。

●弁護士を目指したのは、攻めの性格から

弁護士を目指した理由は、一つは、自分の性格です。攻めの性格で、大学卒業時点で一生稼げるお金がほとんど決まってしまうような生き方は嫌でした。安定を求めるより成功も失敗もある生き方をしたいと思いました。そして、サッカーで一番になったので、勉強でも日本で最難関とされる司法試験を突破したいと思いました。それまで法律については全く勉強したことがなかったのですが、当時弁護士の需要が社会的に大きくなり、法科大学院の制度ができて法学部出身以外の者にも門戸が開かれてチャンスが生まれたこともあります。

日本のスポーツ界は、欧米に比べ、選手の法的なサポートの側面で遅れていると感じていますので、スポーツ界を法的な側面から支え、日本のスポーツ界を盛り上げたいと考えています。

実は、法曹界でもサッカー好きはたくさんいて，サッカーの全国大会があります。さらに、アジア大会やワールドカップもあります。この世界でも、サッカーの強豪国はやはり強い傾向にあります。日本は上位トーナメントに行ったことがないので、いずれはワールドカップで力を示したいと考えています。

また、将来は、サッカースクールの開校を考えています。このことを通して、Jリーガーたちのセカンドキャリアの安定を図りたいとも考えています。

●サッカーと勉強には共通点がある

弁護士になる人は一般に勉強好きが多く、読書家が多い傾向にあります。それに対して、私は、小学校から高校まで受験の経験がなく、勉強も読書も一切していませんでした。今まで読書といったら法律書が一番多い読書です。ただ、勉強に対するパワーはたまっていて、司法試験の勉強も楽しみながらできて本当に勉強しました。勉強が辛いとは全く思いませんでした。サッカーをやめて4年後に受験したわけですが、受験勉強時代は毎日100mも歩いていなかったため、体力がひどく落ち込みました。それで、エアバイクを買って、毎日漕いで体力を戻しました。

スポーツと勉強は非常に共通点が多く、スポーツの経験が、司法試験の勉強に大いに役立ちました。一日だけの練習では上手にはならないが、日々繰り返していると上手になるのと同様に、勉強でもすぐに身につくわけではないが、毎日繰り返していれば次第に身についてきます。これまでスポーツをやっていて、辛い時でも何とか耐えて克服してきた経験が生きています。また、両方とも精神的な面が大きいと思います。大事な公式試合は一発勝負なので、その本番に力を発揮できる精神力が大切なのと同様に、司法試験も1年に1回の一発勝負なので、本番に実力を発揮できる精神力がとても重要になります。

さらに、結果を出すためには、絶対に勝つ、または合格するという強い気持ちが大切で、司法試験は22時間半という長丁場の試験時間なので、その間うまくいかなくても何とか切り替えてやりきる必要があります。そして、自分だけの力でこれがやれているのではない、周りの人たちの支えがあって受験や試合ができているのだということをしっかり感じることによって、それを絶対裏切らないという強い気持ちが持てました。

●弁護士のやり甲斐とは

弁護士というのは、トラブルがあって初めて仕事になるという因果な商売で、ドロドロになった場面にも出くわしますが、人生の岐路に立った人の力になれると言うことにやり甲斐を感じます。また、少年が更生していく姿を見ることも嬉しいことです。

■弁護士になるには

弁護士資格を取得するには、司法試験に合格する必要があります。受験するには、法科大学院を修了するか、司法試験の予備試験に合格する必要があります。司法試験は難関な上、受験回数の制限があります。司法試験を合格した後、約1年間の司法修習を受け、司法修習考試（2回試験）に合格してはじめて、弁護士資格が与えられます。

＝筑波大生の進路は＝産業界に向いている
（2017年卒生のデータから）

2018年7月22日(土)、茗渓会では「教育界にある太い柱と並ぶ産業界の太い柱を作りたい」という趣旨で、「茗渓・筑波産業人倶楽部」の発会式を開きました。

その折、五十嵐浩也筑波大学DACセンター長から、総合大学となり半世紀を迎えようとしている筑波大学の学生の進路状況について、データを交えて説明がありました。筑波大学の学群生と大学院生の進路状況の違いや、就職先についての傾向などについても詳細な説明がありました。その中で、東京教育大学以前の卒業生の動向とは、大きく変わっていることが再確認されました。

しかしながら、当日機器の不調もあって、用意されたグラフなどの詳細データも見られませんでしたが、今回当日使用予定の資料を五十嵐センター長のご厚意により頂きました。また、具体的な就職先の企業名等についても、筑波大学の就職課のHPの記事等も参考にしながら、今号において報告します。今の筑波大学の卒業生は、卒業後どうしようとしているのかの一端がうかがえると思います。

◆学群生の進路状況

《進学と就職が半々。就職の8割が企業へ》

筑波大学の学群の卒業生2283人の進路先は、進学が42％、就職が43％とほぼ同数となっています。残り15％のうち、5％は研修医で、その他10％には、留学生や資格取得の準備等の者が含まれています。

学群生の進路傾向は、大きく見て文系は学群で就職し、理系は大学院に進学しています。社会・国際は74％、人文・文化は70％、体育専門は64％、人間が56％と、就職の割合が多い傾向にあります。一方、理工は75％、生命環境は71％と、進学の割合が多い傾向にあります。情報と芸術は両者が拮抗しています。対して、医学専門学群は進学14％、就職34％、研修医48％となっています。

なお、留学生は、卒業するとそのまま帰国していることが多いです。

就職した学群生は、前年度から28人増加して、1096名です。近年、就職率はどんどん上がっていて、就職希望の学生に対し96・5％が就職できています。これは、前年度比0.6％上昇となっています。

就職している業種を、企業、教員、公務員、独法の4つの分類で見てみると、この5年間ほぼ同じ傾向で、7～8割と大半が企業に就職しています。次は公務員でほぼ1割程度、さらに教員ですが、この5年間で急減していて、結局昨年度は、教員はわずか4％に止りました。昨年度も就職者全体のうちの82％は企業に就職しましたが、そのうちの大多数がサービス業、ソフトウェア・通信、メーカーの順で就職しています。

◆大学院生（修士・博士前期）の進路状況

《ほとんど就職希望も、進学1割就職6割。》

大学院生（修士、博士前期）1805名のうち、11％が博士課程へ進学し、60％が就職して、その他が28％となっています。その他の中に留学生も含まれます。留学生の大半は大学院生で、特に国費留学生は大学院卒業と同時にほとんど帰国しています。

私費留学生の多くは日本での就職を希望しています。現在留学生の卒業後の動向については十分に掌握できていませんので、今後この辺の情報を把握したいと思っているとのことです。

大学院（修士・博士前期）卒業で就職した1087名のうち、大多数となる86％が企業に就職しており、大学教員を合わせた教員への就職は8％の実績となっています。

業種別で見ると、学群卒の学生の大半がサービス業に就職しているのに対し、修士卒は半数近くの48・7％がメーカーに就職しており、次いで25・9％がソフトウエア・通信、17・7％がサービスとなっていて、公社・団体や商社はほとんどおりません。

◆大学院生（博士課程）の進路状況

《就職率98・3％。研究職が1／4》

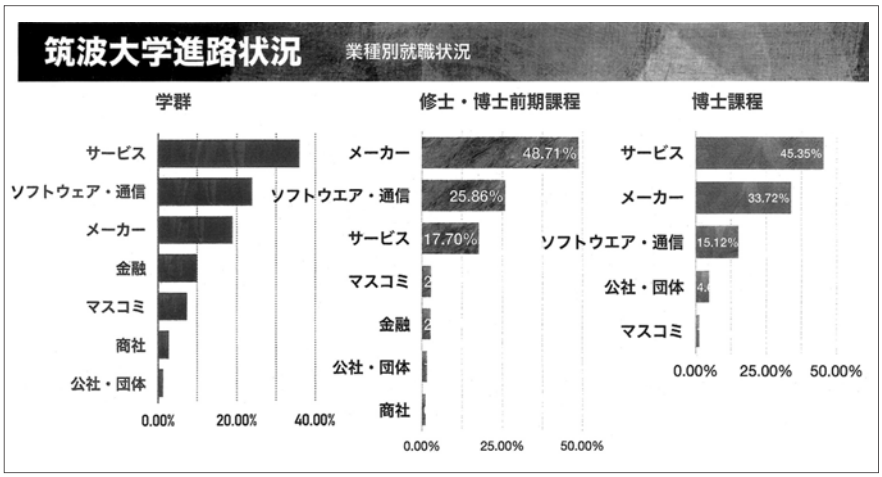
博士課程卒業者の就職率は、昨年度98・3％という素晴らしい実績でした。近年博士課程の就職率は、90％台で推移していましたが、昨年度は非常に高くなり、希望すればほとんどが就職できました。

その50％は企業に就職し、24％が大学教員、5％が教員で、合わせて30％が教員になっており、学群生や修士卒とは異なり比較的割合が高くなっています。

博士課程卒の業種別の就職先は、サービス業が最も多く45・4％、ついでメーカーで33・7％、ソフトウエア・通信が15・1％となっています。

また、職種でみると、4分の1の25・5％が研究職で最も多く、次いで大学教員17・2％、医師・歯科医師が10・9％と続いています。

以上のように、筑波大学の卒業生の多くが産業界に向かっていることは明白です。



◆どんな企業が人気か

《人気は日立製作所、日本電気、NTTデータ》

本学の学生が採用された企業の人数の多い順のこの5年のランキングを見ると、日立製作所がほぼ毎年多数（③11人、①15人、㉓5人、①17人、①18人）となっています。続いては、日本電気も例年多く（②13人、⑯6人、②15人、㉑5人、②16人）、隔年で15人程度採用しています。また、NTTデータも多数を占め（①15人、③12人、④13人、⑨8人、③13人）、毎年10人以上の採用をしています。

筑波大学学生採用企業等ランキング（平成25～29年度）

	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
1	NTTデータ	15	日立製作所	15	日本IBM	16	日立製作所	17	日立製作所	18
2	日本電気	13	リクルート	14	リコー	15	ワークスアプリケーションズ	14	日本電気	16
3	ソフトバンク	11	NTTデータ	12	日本電気	15	デンソー	12	NTTデータ	13
4	日立製作所	11	東芝	10	東芝	13	富士通	11	パナソニック	13
5	楽天	10	三菱電機	10	NTTデータ	13	本田技研	11	ヤフー	11
6	キャノン	9	JR東日本	10	野村総研	10	JR東日本	10	ソニー	10
7	三菱電機	9	三菱東京UFJ	9	リクルート	9	ヤフー	10	富士通	10
8	日立建機	8	サイバーエージェント	9	ヤフー	9	キャノン	10	日産自動車	10
9	JR東日本	8	デンソー	8	デンソー	9	NTTドコモ	8	本田技研	10
10	本田技研	8	大和証券	8	キャノン	8	NTTデータ	8	リコー	8
11	東芝	8	トヨタ自動車	7	トヨタ自動車	8	ソニー	8	キャノン	8
12	三井住友銀行	7	日産自動車	7	サイバーエージェント	8	日本IBM	8	シャープ	8
13	みずほフィナンシャル	7	三井住友銀行	7	本田技研	8	ソフトバンク、パナソニック、楽天、花王、小松製作所	7	NHK	8
14	野村総研	7	アクセンチュア	7	東京電力	8			野村證券	8
15	日本郵政	7	ソフトバンク	7	ソニー等８社	6			ニトリ、トヨタ等４社	7

※筑波大学のHPを元に編集部で作成。企業名は略称。企業名の右の数字は採用人数。

◆官界へは

《国家公務員総合職合格率10・9％、一般職33・9％》

平成29年度国家公務員の総合職の試験状況を見ると、183人の志願に対して一次合格者が45人（うち女子14人）、最終合格者が20人（うち女子8人）で、合格率はそれぞれ24・59％、10・93％となっています。前年度は、209人志願、一次合格62人（女子24人）、最終合格31人（女子16人）で、合格率はそれぞれ29・67％、14・83％という結果でした。

一般職では、218人（女子86人）の志願に対して、一次合格者74人（女子17人）、最終合格者44人（女子11人）で、合格率はそれぞれ33・94％、20・18％でした。前年度は、281人（女子120人）志願に対して、一次合格者101人（女子30人）、最終合格者70人（女子24人）で、合格率はそれぞれ35・94％、24・91％でした。この2年で見る限り、志願者、合格者、合格率ともに低下している結果となっています。

さらに、地方公務員の上級採用試験についてみると、223人の受験に対して、60人の合格者で、合格率26・9％の結果でした。前年度では、272人の志願に対して、79人の合格者で、合格率29・0％で、前年比志願者49人、合格者19人の減少となっています。最多は、茨城県で、56人志願、13人合格となっています。

◆教職は減少傾向に

《教員採用試験の合格率は、23・9％》

平成29年度実施した公立学校教員採用試験の状況を見ると、筑波大学卒業生は、778人が受験して、186人の合格者がありました。合格率は23・9％で、前年度の24・3％（199／819）とほぼ同率ですが、受験者数は41人、合格者も13人減少という結果になりました。

最も多く合格者が出ているのは、地元茨城県で49人（受験者128人）、次は東京都で19人（受験者109人）、3位が埼玉県で14人（受験者34人）、続いて栃木県（受験者29人）と千葉県（受験者50人）が続いています。

関東7都県で、合格者117名（受験者420名）と合格者の62・9％を占めております。

受験者のほぼ半数の54％が関東で、合格者の2／3近くが関東ということになりますが、不開示とされている4県を除き、受験者は全県に及び、合格者0の府県は2桁になっておりませんので、教職を求め実際に教職に就いている卒業生は全国にいるということです。

◆人事は筑波大学生に期待している

《人事が見る大学のイメージランキングで　筑波大学が総合首位！》

日経新聞2018年6月6日によると、上場企業と有力非上場企業929社の人事担当者に対して、採用した学生から見た大学のイメージを聞いてみると（2018年の2月～3月調査）、筑波大学が総合で首位になりました。2位以下は、京都大学、東京農工大学、大阪大学、東京外語大学、横浜国立大学、九州大学、早稲田大学、慶應義塾大学、名古屋大学と続き、11位に東京大学、12位に神戸大学、13位に東北大学という結果になりました。

ちなみに、項目別で見ると、筑波大学は、行動力は4位、対人力は2位、独創性は3位、知力・体力は5位と、それぞれの項目で上位を占めています。

筑波大学の学生は、企業で活躍できる人材が多いということでしょう。

◆留学生は2000名以上

「世界に開かれた筑波大学を象徴しているのが留学生で、現在2157名在籍しています。また、海外の同窓会組織に入っている人は、全体で2000人程度いますので、全世界に会員がいるということです。

箱根駅伝 復活プロジェクト報告

筑波大学ＴＳＡ准教授（男子駅伝チーム監督）
弘山　勉

10月13日に開催された第95回箱根駅伝予選会。この競走は独特な競技方式が採られる。「40校×12名＝480名」が一斉に走り、各校上位10名の合計タイムで争われるために、結果発表まで正確な順位はわからないのだ。レースが終わり、期待と不安が交錯する中、ゴールとなった東京都立川市の昭和記念公園「みんなの原っぱ」で結果発表が始まる。今年度は記念大会であるため11校までが予選通過。1位から大学名が読み上げられると、チームと関係者の誰もが固唾を飲んで耳を傾ける緊張の瞬間となる。

読み上げられた大学の陣営からは大きな歓声が上がるが、筑波大学は残念ながら蚊帳の外。その場に立ち尽くすように肩を落とす筑波大学の選手を関係者が囲んでいる陣地で、トーンは上がらない。それは、選手も関係者も、テレビ中継の模様と各選手のゴールタイムから「今年も予選通過を果たせなかった」ことを既に知っているからだ。

私が駅伝監督として筑波大チームを率いて4年目、「そろそろ筑波大学を箱根へ連れて行かねば」との意気込みを持ってチーム強化に当たってきた。悔しさは当然あるが、ある意味では前向きな敗戦として結果を受けとめることができる心境だった。それは、過去3年間で戦い敗れた後は、「一体、どうしたら、このレベルの高い箱根予選会を通過できるのだろうか」と歴然とした実力差を突き付けられる途方感しかなかったが、今年は違った。それは予選通過ラインまで9分以内となり、予選突破への見通しが立ってきたような気がしたからに他ならない。「渦中の学生は、どう感じているのだろうか」と思って、走った選手に目を向けると、歓喜の声や喜びを分かち合うように抱き合う他大学の姿を筑波大学の学生はしっかりと見ている。涙を流す者は、ほとんどいない。「来年こそは、歓喜の輪を作ってみせる」とその光景を目に焼き付けようとしているかのように。そう、学生たちも私も、初めて〝戦えた感〟があったのだ。

3年前までは、この結果発表が始まる前に、応援者への挨拶を終えていた。結果発表をまるで他人事のように眺める筑波大学でしかなかった。箱根駅伝など夢のまた夢という遠い存在にしか思えない大学。もちろん周囲の期待もない。「何をどうしたら、箱根駅伝に出場できるようになるのか」という課題を実行に移すどころか、その術を思いつくことさえもできない。20年以上前までは箱根駅伝に毎年出場する常連校だったことが、予選会敗退の数を重ねるに従い記憶から薄れていく。暗黒の時代は、さらに暗闇の奥底へと引き込まれていくようで、彷徨う迷路に出口は永遠に訪れないと誰もが思っていたと察する。

その出口を探すために、私（弘山勉）は招聘されたと思っている。2011年に『筑波大学箱根駅伝復活プロジェクト』が立ち上がっていた。恥ずかしながら、箱根駅伝を4回走ったＯＢの私ですらプロジェクトの存在を知らなかった。その程度の認知度でしかなかったということ。そのプロジェクトを遂行する駅伝監督としての任務が私に打診されることになるのだから、筑波大学と深い縁があると感じる。

着任当時、意気揚々とチームの指導を始めた私はチームの現状に愕然とした覚えがある。「箱根駅伝を目指すレベルからは程遠い」というどころではない。全てが足りないのだ。選手（学生）数も少なく走力が低い。練習量も少なく、取り組む姿勢も浅けれ資金はゼロ。ば、努力も足りない。栄養面もお粗末で、スタッフは私だけで、移動車輌すらない。挙げたらきりがないほど、何もない。言い過ぎを覚悟で言うと、あるのは〝大学のブランド力〟だけだった。「さあ、どうする？」何から手をつければいいのか、筑波大学駅伝監督として自問しながら暗中模索の歩みが始まった。3年半前のことである。

最初に私は、名ばかりのプロジェクトを推進するためには、内外に本気度を示す必要があると考えた。まずは、学生の意識にメスを入れた。「本気で目指せ！」と叱咤激励を続け、中途半端な目標を、箱根駅伝出場という明確なものにした。そして、学生主体の活動から、私がリーダーとして介入する活動にシフトさせた。ただ、これは一時的な措置。意識が高まれば、学生主体の組織に戻せばいいと考えてのこと。「それに何年かかるか？時間との勝負だろうな」と判然としない始まりだったことを思い出す。学生へ本気の浸透を図りつつ、本学陸上競技部ＯＢ・ＯＧ会の集まりに出向き、とにかく、本気度をア

ピールした。すると、有難いことに支援してくださる方が数人現れたのだ。中には「駅伝は嫌いだけど、弘山君は気に入った。あんたなら支援する！」という具合に、応援者が増えていった。涙が出るほど嬉しかった。

次に着手したのが、プロジェクトの広報活動。ホームページを開設し、我々の本気度と成績アップを発信するツールを構築させることにした。公開は２０１５年度の箱根駅伝予選会前。ギリギリ間に合った。自ら注目度を高めた最初の予選会は、前年から一つ順位を落とすという惨敗だった。無力感しかなかった。

私は学生時代に箱根駅伝予選会を２度戦っている。場所は大井埠頭。当時の箱根駅伝は15校で争われ、予選会は６位までが通過するものだったが、今では箱根駅伝出場校は20校に増え、そのうち10校が予選会突破校である。当時は、20㎞のチーム平均が64分程度でも通過した予選会が、今は61分でないと通過しない。その現実を目の当たりにし、私は驚愕を覚えた。半端な活動では箱根駅伝出場は到底成し得ない。今のままでは、筑波大学は永遠に箱根の舞台に返り咲けないと感じ、私一人の力では、どうにもならない試合であることを悟った。「ヒト・モノ・カネ」と言われる現代の箱根駅伝に立ち向かうために、何をすべきか。あらためて考える機会になった。

何と言おうと本学の本質は「人」。情報発信と勧誘活動（本学を受験してくださいとお願いに出向くこと）に注力し、全国を渡り歩いた。大抵の場合は「箱根駅伝に出場できる大学に進みたいので」と高校生から門前払いを受けることばかり。それでも、文武両道を目指す若者の入学が年々増えていった。私が着任した２０１５年は４人の加入だった長距離部員が、13人（２０１６年）、13人（２０１７年）、16人（２０１８年）と年々増えていった。５０００ｍで14分台の記録を有する人数も、９人（２０１５年）から24人（２０１８年）に増え、選手層は大幅に増強している。自ずと箱根駅伝予選会の成績は上向いてきた。

	チームの人数	5000m 14分台の人数	予選会の総合順位	予選通過とのタイム差
2015年	24	９人	22位	24分54秒
2016年	27	13人	24位	22分40秒
2017年	34	17人	19位	13分09秒
2018年	42	24人	17位	８分32秒

注目していただきたいのが、予選通過ラインに対してのタイム差。２年前までは絶望的な差だったが、昨年は13分となり、今年は９分を切るところまでチーム力は向上してきた。相馬崇史（体育・２）が、関東学生連合チームに２年連続で選出されたことも成長の証（前回は怪我で欠場）。２０１９年正月に桐の葉のユニフォームが箱根路を踊るように、精一杯の準備をしていきたい。（５区の山登りを第一希望で提出済）

このように成績アップの影には、多くの協力があってのこと。茗渓会からは支援課外活動として特段のご高配を賜り、陸上競技部ＯＢ・ＯＧ会からの支援、クラウドファンディングを実施して寄附を募り、さらには筑波大学基金には持続的に寄附が入るようにもなっている。各研究室にも協力をいただき、身体データ計測や体力測定、栄養などコンディショニング・サポート体制が築かれつつある。これらの協力・支援体制を全学的に広げることができれば、箱根駅伝出場をぐっと引き寄せられるだろう。私の役目は、単なるコーチ業ではなく、応援者と支援者を増やして、より大きな〝チーム筑波大〟を結成することにあると思っている。それも永続的なサポータークラブを作ること。

現在医学専門群の学生が３名、理工学群が９名所属している。「医学生が箱根駅伝を目指せるのは筑波大学だけ」と言えなくもない。文武両道が具現化できている象徴として記しておきたい。東京高等師範学校から脈々と受け継がれてきた高等教育機関としての誇りを胸に、文武両道を邁進させていきたい。筑波大学が箱根駅伝に挑戦する意義は、文武両道の総合大学であることを箱根駅伝という国民的なイベントを通して世に示すことにある。より多くの卒業生にサポーターとしての係わりをお願いし、筑波大学の箱根駅伝復活出場を実現したい。その刻は間違いなく近づいている。

サポーターの皆さまと大手町のゴールで歓び合う日を夢見て、私は使命を全うしていく所存であることをお伝えして本手記を終えたいと思う。

オリンピックにおけるセーリング（ヨット）競技について

天辻　康裕（昭和54年筑二農卒）
（日本セーリング連盟・理事
オリンピック準備委員会事務局長）

我が国におけるセーリングの歴史

我が国のセーリングの始まりは、他の近代スポーツと同様に開国で長崎や横浜に去来した外国人が明治初期から居留地でセーリングを楽しんでいたと言われています。

日本人が趣味・スポーツでセーリングを始めたのは明治末期と言われており、当時葉山町の相福寺に合宿していた慶応大学水泳部が小型ヨットを森戸海岸沖で帆走させたのが始まりです。

近代オリンピック、セーリング競技の歴史

470級（男・女）

近代オリンピックの第1回大会は1896年アテネで行われ、セーリング競技も予定されていましたが悪天候のため実施されませんでした。1900年、第2回大会はパリで行われ、第1回大会で実施された陸上、競泳、体操、フェンシング、レスリング、ウエイトリフティング、射撃、テニス及び自転車競技に加えてセーリング、アーチェリー、サッカー、ゴルフ、ラグビー、ボート及び馬術競技が実施されました。

RS：X級（男・女）

日本オリンピックチームは1912年、ストックホルムで行われた第5回大会に嘉納治五郎団長以下陸上選手4名が初出場を果たした。セーリング競技では第11回ベルリン大会に財部寛さん（スター級）以下6名が出場しました。セーリング競技におけるメダル獲得は1996年第26回アトランタ大会で、重・木下組が女子470級銀メダルを獲得したのが最初で、以後、2004年第28回アテネ大会で関・轟組が男子470級銅メダルを獲得しています。

リオデジャネイロオリンピックの結果と反省

リオオリンピックセーリング競技の結果を以下に示します。（全10競技中7競技に出場）

- 男子470級　土居・今村組　17位（26艇中）
- 女子470級　吉田・吉岡組　5位（20艇中）
- 49er級　牧野・高橋組　18位（20艇中）
- 49er FX級　宮川・高野　20位（20艇中）
- 男子RS：X級　宮澤　15位（36艇中）
- 女子RS：X級　伊勢田　20位（26艇中）
- レザーラジアル級　土居　20位（37艇中）

上位半分に入ったのは女子470級と男子RS：Xだけで、目標であった2種目でメダル獲得、2種目で入賞には程遠い結果でした。ほとんどの選手は事前の世界ランキングに近い結果となりました。

これから2020年東京オリンピックに向けて、もう一段レベルをあげるには、専門性を持った周囲のサポート力を取り入れていくことが必要で、日本人選手共通の弱点でもあるメンタル面を強化することによって、長い競技期間の中での勝負どころで力を発揮できるよう準備することが重要です。

2020年東京オリンピックへの準備

2020年東京オリンピックのセーリング競技はリオオリンピックと同様で6艇種、10競技で行われることが決定しています（各写真参照）。

競技艇種は毎オリンピック大会ごとに変更されることがあり、2024年パリ大会では470級は男女ミックスになる、フィン級は採用されない、大型艇種の競技が導入される等の話題がワールドセーリングで議論されています。

フィン級（男）

現時点での諸問題

11月中旬に2019年度のナショナルチームが発表され、本格的な選手の強化育成が進んでいますが、様々な競技が強化育成を行っているため、限られた財源を多くの競技団体に割り振ることから、セーリング競技の強化育成予算は昨年度の3割に減額されています。

大会運営については国際オリンピック委員会（IOC）、ワールドセーリング（WS）、日本オリンピック組織委員会（TOCOG）、日本オリンピック委員会（JOC）、神奈川県、日本セーリング連盟（JSAF）及びセーリングに係る諸団体・企業と漁業組合等地域の諸団体が協力して、それぞれの役割・課題を着実に全うし解決していくこと重要です。

現時点では全ての問題が解決しているとは言えませんが、タイムリミットは迫っており関係者間の調整が待たれるところです。

ナクラ17級（男女ペア）

現時点で会場となる江ノ島ヨットハーバーは改修が予定されており、オリンピック本番には間にはオリンピック開催に相応しい施設になるとのことですが、改修以前に行われるワールドカップクラスの会場は現行施設を使わざるを得ません。2018年実施したワールドカップでは本部棟の会議室以外は仮設のテントかプレハブが使用されました。今年のセーリングワールドカップ江ノ島大会は9月10日から16日に開催されましたが、来年のプレ・オリンピック大会では本番と同様の8月上旬に開催が予定されており、酷暑の中、選手及び運営役員・要員の健康問題がポイントになります。

レーザー級（男・女）

オリンピックセーリング競技の運営主体はワールドセーリング（WS）の主導で準備・実施されます。日本人レース運営スタッフも2017年から4年間日本開催が決定したセーリングワールドカップ、クラス別世界選手権等、合計20レース程度の国際レースの開催・運営を計画・実施しており、世界レベルのレース運営手法を学んでいるところです。問題は陸上本部等のバックヤード部分を担当する運営要員やボランティアのトレーニング方法が確立していないことです。

オリンピックで活躍するボランティアの皆さんは全て日本オリンピック組織委員会（TOCOG）に登録する必要があり、募集、選抜、育成及び競技支援は全てTOCOGが管轄することになっており、都市・大会ボランティアを現在募集中です（都市ボランティアは市町村が募集しています）。各競技の大会ボランティア育成計画を作成し、効率的な育成を行っていくことが重要だと思います。

一方、セーリングワールドカップに運営参加されたセーリング競技ボランティアの皆さんは数年前から日本セーリング連盟が募集したボランティアで、数回のセミナーやセーリングワールドカップ蒲郡大会、他の国際大会レースで研鑽を積み、2018年に実施されたワールドカップ江ノ島大会ではワールドセーリング役員からボランティアの活動に対して多大なる賛辞をいただきました。

ワールドカップレースで活躍されている経験豊富なボランティアの皆さんがTOCOGにボランティア登録していただき、2020年東京オリンピック本番で気持ちよく活動していただくためにも、ボランティア休暇制度や宿泊地の斡旋など問題を解決していく必要があります。

レース海面を予定している江ノ島沖の海面には定置網があり漁業組合との調整が欠かせません。1964年の東京オリンピックでは、江の島周辺の漁業権は東京都が買い上げましたが、定置網については交渉が難航しました。2020年東京オリンピック本番での協力は得ているものの、それまでの国際大会では定置網を避けてセーリング競技のレース海面を設定しざるを得ない状況です。

2018年セーリングワールドカップでは午前中の漁の妨げにならないよう、レース開始は午後からという協定を結び、やっとワールドカップを実施することができました。

これらの諸問題はまだまだ氷山の一角で、解決すべき課題は山積みですが、問題を的確に把握し、地道に解決していくことが肝要だと思っています。

49er級（男・女）

茗渓ソフトテニス130周年を祝って

古谷　三郎（昭和31年教大英　聖徳大学名誉教授）

平成30年11月23日（金）「つくば山水亭」において、茗渓ソフトテニス130周年記念式典・パーティーが開催されました。東京高等師範・東京文理科大学・東京教育大学・筑波大学と校名を代えてきましたが、軟式庭球部ＯＢ・ＯＧたち86名（大学院生を含む）と現役部員男女18名に加えて、来賓の方3名が集い、盛大な会を催すことができたのは大きな喜びでした。

我が国にソフトテニス（当時は軟式庭球）が誕生したのは明治17年（１８８４年）ですが、これには高等師範学校の坪井玄道先生が大きく関与しています。その4年後の明治21年（１８８８年）に高等師範に庭球部が創設されました。爾来今年で130周年を迎えたわけです。午後4時30分から始まった式典には、冒頭で高翔会（茗渓ソフトテニスＯＢ・ＯＧ会）会長である宗像敏夫氏（昭和50年教大数）の挨拶があり、続いて筑波大学永田恭介学長のお祝いのメッセージを佐藤忍副学長からご紹介頂きました。

その佐藤忍氏から、高等師範時代から連綿と継続してきたソフトテニスに触れて、今後もその成果を大いに上げてもらいたいという祝辞を頂きました。続いて、来賓の筑波大学体育センター長である山田幸雄氏から、学校体育の中で果たしてきたテニスの重要性に触れ、その役割を担ってきた茗渓のＯＢ・ＯＧの功績を称える祝辞を頂きました。

その後で與語靖洋氏（昭和56年筑二生）から茗渓ソフトテニスの130年の軌跡の概略の説明がありました。次に現役男女の主将の挨拶、部員の紹介がなされました。最後に筑波大学軟式庭球部の部長の清水諭氏（昭和59年筑体）から部の現況報告がなされ式典は終了いたしました。

引き続いて午後5時20分から始められた記念パーティーでは、最初に與語靖洋氏の挨拶があり、次に日本ソフトテニス連盟副会長星野博氏から祝辞の中で、日本連盟の運営に当たって、高翔会のメンバーの中の3名の実名を挙げて、大いに協力し貢献をしている実情の話がなされました。次の乾杯の音頭を古谷三郎氏（昭和31年教大英）が取りました。氏は、茗渓130年の歴史は勝利至上主義ではなく、健全な良識を備えた社会人足るべくテニスに身を捧げたスポーツマンの歴史であるという話をされました。

その後は出席者どうしの歓談に移りましたが、スライドショーの紹介がなされ、宣揚歌が全員で歌われ、中締めとして女子部創設時の初代であった岸本弘子氏（昭和36年教大健）が立ち、10年後の再会を期す力強い挨拶で締め括られました。その後は現役のエールがあって和やかで楽しい笑顔に溢れた交歓のパーティーは午後7時30分に終了しました。

翌24日（土）に土浦市霞ヶ浦総合公園水郷テニスコートで開催された記念テニス大会には、ＯＢ・ＯＧ65名（大学院生・見学含む）、現役16名、総勢81名が参加しました。

記念式典、パーティー、テニス大会と2日間に亘って盛大に挙行された記念行事でしたが、次の10年を充実したものにして２０２８年には創部140周年を迎えたいと関係者一同が念じています。

筑波大学軟式野球部 OB会30周年大会

会長　中村典生

平成30年11月10日、筑波大学軟式野球部OB会の30回目の総会及び懇親会が茗渓会館で開催された。昼間は神宮の軟式野球場でOB野球大会とホームラン競争（ホームラン競争とは言っても柵のない球場だったので、ここまで飛べば「認定ホームラン」という形だったが）。そして夜は新しくなった茗渓会館での総会・懇親会へと傾れ込んだ。ここには全国各地から上は53歳、下は18歳まで35歳もの年齢差のOB・現役会員約150名が集結した。会は事務局長の五十嵐氏、副会長の山中氏を中心にしっかり時間をかけて準備された内容で、現役の戦績報告、昼間の表彰式、OBや新OBの挨拶等と進み、クイズ形式のゲームでは当時の懐かしい写真も登場。楽しい時間はあっという間に過ぎ、会は盛会裡に幕を閉じた。以下が昼間の野球大会、総会及び懇親会後の写真である。皆の嬉しそうな顔が大変印象的である。

思い返せば30年前の1988年、10数名のOB・現役が集まり、卒業生を送る会のような形で始まったのが最初のOB会が行われた。これは言うなれば単なる追いコンの域を出ない会だったように思う。OBもせいぜい10名程度しか辿ることができず、それがまさかこんな30年続く立派な組織になろうとは思いもしなかったというのが本音である。あらためてこのOB会を育てて来て下さった皆さんに感謝である。

軟式野球部（当時は軟式野球同好会）、通称軟野（なんや）の誕生は1980年前後に遡る。私が入学した1986年頃は決まった練習場所がなく、図書館裏の広場（今は研究棟となっている）や花畑の空き地（当時はたくさんあった）などに出かけ、「空いていたら」そこで練習するといった行き当たりばったりの練習形態であった。

そしてOB会が誕生した1988年となる。この年はベルリンの壁が崩壊し東西冷戦が終結した年。部としてもOB会発足に加え、週6回の練習開始、合宿の初敢行、軟式野球同好会から軟式野球部への名称変更、東関東リーグへの加盟と、最初の大変革期を迎えた年であったように思う。練習場所も大学中心部から一ノ矢方面に向う途中にある「虹の広場」を、なかば勝手に軟式専用の練習場とした。授業が終わるとめいめい自転車でここに向うのである。これが後にOB会報の名称が「虹の広場」となった理由でもある。

東関東リーグでは最初から強豪の仲間入りをした。2002年に北関東大学野球連盟に移動するまでに8回ものリーグ優勝を成し遂げ、東日本大会、全日本大会にも1回ずつ出場を果たした。1998年にはOB会10年史を発行。この表紙には東関東リーグのチャンピオン・フラッグが踊っていた。

2002年の東関東リーグから北関東リーグへの鞍替は、交通の便を勘案したものであったようである。これから軟野にとっては厳しい戦いが続いている。北関東リーグは強豪大学がひしめいているからである。移動後の16年間で東日本大会に出場したのは2008年と2014年のみ。チームとしては確実に実力を伴った非常にいいチームとなっているのだが、相手も然る者。リーグの壁を突破することがなかなかできずにいる。以下が以上の大雑把な年表である。

1980年頃	筑波大学軟式野球同好会（軟野）誕生
1988年	軟式野球同好会から軟式野球部へ名称変更
1992年	東関東大学野球連盟加盟（現在に至る）
1997年	加賀信広先生軟野顧問となる
1998年	第18回東日本大会出場 OB会10周年記念史
2002年	第21回全日本大会出場 北関東大学野球連盟に移動
2008年	OB会20周年記念
2014年	第29回東日本大会出場
2018年	第35回東日本大会出場 OB会30周年記念

しかし大事なことは成績だけではない。ある意味、部の活動を通じて一生付き合える仲間を得ることが最も大事なことではないか。そういう意味では、軟野のメンバーはしっかりその意味がわかっているように思う。喜怒哀楽をともにし、代々素晴らしいチームを作り上げ、竹馬の友ならぬ筑波の友を得てきたからである。その仲間と年に一度再会できる場所がOB会である。言い換えれば、筑波大学に「帰る場所」がこのOB会に他ならない。

30年の重みは茗渓の水に集い、部をここまで育てて来た多くの部員たちの思い・そしてこの人と人とのつながりの重みである。30年の一区切りの過ぎ、今度は次の10年、20年、30年に向け新たな一歩を踏み出す時である。草創期に中心となってOB会を興して来たメンバー、現在中心となって運営をしてくれているメンバーの、また次の中心メンバーがそれを担わなければならない。それは桐の葉に3番が加わるようなものであろう。

最後に、30周年大会に向けてご尽力いただいた五十嵐事務局長、山中副会長をはじめとしたすべての方々、そして今回執筆の機会をいただいた茗渓会様に心より御礼申し上げたい。

願わくは50周年を迎える時にも、筑波大学軟式野球部OB会が益々盛んであり、皆元気にこの懐かしい面々と再会を果たしたいものである。

茗渓・東西南北

栃木茗渓会活動報告
～山紫水明の地より～

栃木県と言えば、先ずは山紫水明の地、日光国立公園でしょう。明治時代からのリゾートとして知られる中禅寺湖畔や三大名瀑の一つの華厳滝、世界一長い並木道の日光杉並木、東照宮、輪王寺、二荒山神社の「日光の社寺」は世界文化遺産です。日光江戸村や東武ワールドスクエアのある鬼怒川、紅葉や大吊り橋のある塩原、観光牧場と動物王国やファミリーパークなどのご家族向けレジャー施設が充実している那須高原といった温泉地も、この国立公園の中にあります。その他にも、餃子とジャズとカクテルの街県都宇都宮、「板東の大学」足利学校と春の大藤・冬のイルミネーションで人気の「あしかがフラワーパーク」の足利市、彫刻屋台とサツキと木工の街鹿沼市、蔵の町・小江戸栃木市、ラーメンの佐野市、焼き物の益子町など、魅力ある観光地もたくさんあります。

また、野外劇「烏山の山あげ祭」は、鹿沼の彫刻屋台とともにユネスコ無形文化遺産に登録されました。さらに栃木県は、「スカイベリー」「とちおとめ」などの美味しいイチゴが栽培される「イチゴ王国」でもあります。

以上のような魅力満載の本県なのですが、全国的知名度は今一歩のようで、魅力度のランキングでは、常にお隣の群馬・茨城と下位を競っている状態です。茗荷谷駅から宇都宮駅までは電車で1時間強、筑波大学から宇都宮までは北関東自動車道路を使って1時間半弱というアクセスです。東京、あるいは筑波大学をご訪問の折にはぜひ足を伸ばしていただければと思います。

このように東京にも茨城にもアクセスの良い栃木県には、数多くの同窓生がいますが、支部としての組織的な活動は教員に支えられています。他の職種、例えば県庁職員の中にもOB会がありますが、残念ながら連携しての活動はできていません。総合大学としての筑波大学が卒業生を出してから40年以上が経ちます。業種を超えた交流は今後の課題の一つとなっています。

支部会としての主な活動には、6月の総会・懇親会、1月の新年会・研修会があります。懇親会・新年会は叙勲祝賀会を兼ねる形で開催することもあります。例年、宇都宮市の「ホテル丸治」を会場としており、他の会場で開催されるときには注意書きを入れるほどです。1月の懇親会の時に実施される、同窓生を講師としてお招きしての研修会もまた、貴重な勉強の機会となっています。ただ、懇親会への、特に若い世代の参加が年々減少し、参加者が固定化してしまっている点が最大の課題となっており、会費納入方法の改善などに努めているところです。

その他、筑波大学出身第一期生が定年を迎えるのを機に、栃木市を会場に筑波大学出身者の懇親会及び研修会を開催した年もありました。この時には、若手を中心に多くの参加者があり大いに盛り上がりました。こうした現役世代をいかに同窓会活動に巻き込んでいくかについて、知恵を絞っていきたいと考えています。

若杉俊明（昭和57年筑一人文）記
（宇都宮東高校・同附属中学校長）

平成30年度 北海道・東北ブロック代表者会議

平成30年11月23日(金)に青葉山や広瀬川などの豊かな自然に恵まれた「杜の都」仙台で北海道・東北ブロック代表者会議、江田昌佑理事長の「茗渓人として知っておきたい噺」(本誌参照)講演があり、更に宮城県茗渓会総会が行われました。

1　江田昌佑理事長（茗渓会）挨拶

最初に東日本大震災と北海道大地震では、被災者に対し心からお見舞い申し上げます。一日も早い復興を願っています。また、役員の皆様のご協力に感謝しています。

ブロック会議の発足のねらいは、先輩後輩、同窓が力を寄せ集めて力強いものにしていく、人間的な向上を図るというものだと思うんですね。これは、茗渓の精神であり、隣接地域間での集まり、絆作りなどの人間的交流、すなわち先輩、後輩の交流の深化です。

茗渓会は、150年の歴史を誇る教育界のほかに、母校筑波大学の多くの卒業生が進出している産業界での結束を促進するための産業人倶楽部を発足させました。具体的には、ブロック単位の産業界の交流を目指そうという考えです。次に、三つの課題ですが、①会員数の増加、会費納入率の向上による財政の健全化、20年前に比べて会費納入がほぼ半分となっている。会員の9％しか収めていない。何とかしたい。②茗渓創基150年の記念式典事業は、準備中です。将来に良いバトンタッチをしたい、ふさわしい事業展開等、改元の時期にある日本で一番古い高等教育機関の同窓会としてこれを継承していきたい。2022年をピークに事業展開します。③母校は95％が教育界以外に進出している。産業人倶楽部の発足の要因でもあります。

東京、茨城、千葉、神奈川ではすでに活動しています。更に、近畿、九州が、検討し始めている。このブロックもはじめていただきたい。時間がかかってもよいと思っている。

今年の代議員総会でもそのお願いをしました。今後、このブロックにおいてもよろしくお願いをしたい。

2　北海道・東北ブロック代表者会議

○小野寺代表（宮城茗渓会）の司会により、次のような協議が行われました。

まず、本部の川田理事に協議用資料を説明してもらいます。次に、各県の現状と、もし対応している方策等があればご紹介いただき、先ほど江田先生からありました、この北海道・東北ブロックのところで各支部の活性化とともに、ブロック単位で何かできないかということをお話いただきたい。今日は結論というかそういうものまでは難しいとも考えます。

○川田孝一理事（茗渓会組織委員会）

本日配付した「地域組織等の新たな活性化に向けて―茗渓会　茗渓・筑波産業人倶楽部の発足―」の資料は、今回の代表者会議のために組織委員会としてご用意させていただきました。協議の経過は、江田理事長の諮問に基づき、関係プロジェクトが協議を進め、平成28年1月に「新法人発足3年を経過してレビューと中期将来計画」についてまとめたものです。要点は、昭和、平成、新しい改元の時代の流れの中で茗渓会は新しく今後2本柱で〝同窓会としての互助事業の拡充〟を行い、各地域組織等の活性化を目指すというものです。

総合大学としての母校筑波大学の卒業生は、教育界、産業界、行政等の幅広い分野に進出し、活躍しています。今後は、全国にネットワークのある教育界と今後ネットワーク化を目指す産業界の2本柱で茗渓会の活動を推進するというものです。

次に、茗渓・筑波産業人倶楽部の発会に向けては一年以上かけて、それぞれ企業の代表の方が集まって何をどのように行うかをテーマとして協議を重ねました。主な組織は、「茗渓経済クラブ」と「つくば未来の会」という、企業人の集まっている組織です。毎月1回以上の集まりは、茗渓会のために新しい組織作りにしっかりと話し合っていこうというボランティア精神による仲間のための協議の積み重ねが、今回の茗渓・筑波産業人倶楽部の母体です。その結果、今年7月22日茗渓・筑波産業人倶楽部の発会式を行いました。

○各地域組織の現状と課題（自己紹介を含む）

・小野寺清隆（宮城　代表）

私は、今日まで宮城の支部長であります、筑波体育昭和55年卒の小野寺清隆でございます。専門はサッカーをやっておりまして、この3月まで高校の校長ということで退職しております。どうぞ宜しくお願いいたします。

・齊　隆（宮城　幹事長）

宮城県の幹事長を務めております、今日の総会で支部長の予定です。名取市立みどり台中学校の校長をしております。に義務教育では、筑波大学の卒業生が多くはないので、何とか教え子たちが産業会等で活躍できるように進めていきたいと思います。

・津田　浩（山形　代表）

現在、山形県立山形西高等学校の校長を務めております。昨年まで教員採用等の教育行政の方におりました。山形県の高等学校採用数というのは30人前後です。その中で筑波大卒が毎年一人いるかいないか、というのが現状でございます。教員以外で山形に戻ってきているのかということが全くつかめない状況の中で、どうやって会員の所在を掴もうかについて活動したいと思っております。

・大沼　寛（北海道　代表）

東京教育大47年体育学部武道学科出身です。札幌西高校で退職しましたが、現在、私立の大学で教科を教えています。この度の台風、地震による災害に対して、全国から多くのご支援を頂きました。かっては高校の管理職も50名程いましたが、現在は一桁です。他の業種の人材把握については、副会長に北海道新聞社（茗渓出身者が複数いる）の広報部長さんを入れて、同社からも総会や懇親会等に来てもらってという活動を徐々に進めています。

・花田　慎（青森　代議員、元代表）

私は筑波大学の4回生で昭和56年度に体育専門学群を修了いたしました。今は青森県立青森西高等学校の校長を務めています。青森県の支部の支部長としては、平成28年夏から担当しています。実は今年度8月に役員改選があり、別な方に支部長は交代したのですが、代議員としては任期がまだあるので、本日、出席しました。

・越後谷真悦（秋田　代表）

今年の3月で、秋田県立由利高等学校の校長を退職しました。筑波の3期生で体育専門学群を卒業しました。今は、秋田大学で非常勤的な仕事をしています。本県は、校長茗渓人は、公立では十分の一（50校中）という状況です。確かに教育関係ではない卒業生もずいぶん増えていると思いますので、これからどういうふうな在り方があるのか、一緒に考えていかなければならないと思っています。どうぞ宜しくお願いします。

・新田銀一（福島　代表）

支部長は今年で2年目になります。私は葵高等学校を7年前に退職しました。福島県の現状は、23年の3・11の時までは、年1回の総会には100名近くが参加しておりました。震災後の4年間は、一旦中断しました。その後27年に復活して今年で4回目になります。

今年の総会では県の行政から一人参加しています。また、私のほうに「東京の方から原発関係でこっちにいるが、茗渓会の組織に入りたい。」との相談があり、福島県の茗渓会に入会を熱望しているという方がいることは確かです。今後は、とりあえず茗渓会関係者の把握等の努力していきたいと思います。また茗渓の教職員の数も少ないので事務局をどこに定めるかが課題になっています。皆さんの期待を裏切らないように頑張っていきたいと思います。

・佐藤　有（岩手　代表）

私は、筑波大学農林学類を卒業し、岩手の教員として、高校の生物の教員をやっています。岩手は総会と新年会・懇親会をかねて、毎年1回1月に活動しています。現在は40人程度の参加者です。民間の方も1～2名来ています。今後は会員、特に新人や若い人に声かけをしていきます。事務局は、岩手大学さんにお願いし、岩手大学の先生も5人程度参加していただいています。支部長として、少しずつ盛り上げていく考えです。

・まとめ（司会　小野寺清隆　代表）

各県の課題への対応や現在の教育界の中心にある組織ををどう盛り上げていくか、また、産業人倶楽部をどう立ち上げるかなどについては、茗渓会のホームページをチェックする等により、実態に応じてブロック内や本部との連携を推進し、適切な対応を探求することが話題になりました。

（文責：組織委員長　川田孝一）

筑波大学は今

タジキスタン大統領とマレーシア首相に名誉博士称号を授与

10月14日にタジキスタン共和国のエモマリ・ラフモン大統領が、11月5日にマレーシアのマハティール・ビン・モハマド首相が、それぞれ本学東京キャンパスを訪れ、永田学長より名誉博士号の学位が授与されました。

本学はこれまでに、タジキスタン共和国のロシア・タジク・スラヴ大学およびタジク国立言語大学と、また、マレーシアのケバンサアン・マレーシア大学、マラヤ大学、ウタラマレーシア大学およびプトラマレーシア大学と、学術交流協定を締結し、両国との交流を発展させてきました。

授与式では両氏とも、日本との関係強化の重要性や、研究教育分野における本学とのさらなる協力に対する期待を述べられました。

マレーシア首相のマハティール・ビン・モハマド氏(左)と永田恭介学長(右)

タジキスタン共和国大統領エモマリ・ラモン氏

筑波大学学園祭「雙峰祭」

11月2日～4日にかけて、第44回筑波大学学園祭「雙峰祭」が開催され、延べ3万3千人が来場しました。総合大学ならではの幅広い分野を網羅した学術展示、芸術を学ぶ学生による制作展示、大迫力のステージパフォーマンス、個性的な模擬店など、350以上の企画が筑波キャンパスを彩りました。

筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所「大明神寮」登録有形文化財に登録

長野県上田市にある、本学山岳科学センター菅平高原実験所の敷地に建つ木造平屋建造物「大明神寮」が、登録有形文化財として登録され、その記念式典が10月16日に開催されました。

登録有形文化財（建造物）とは、文化財としての社会的評価を受ける前に、失われかねない建造物に対する保存措置を講じるための制度です。

大明神寮は、本学の前身である東京教育大学の理学部附属菅平高原生物実験所の宿舎として、昭和40年10月に建てられました。今回、評価されたのは、「高原の緩斜面に建つ。木造平屋建で北側に廊下を通し、東に4室、西に食堂や風呂などを配す。南面に出窓を設けて二重窓として採光と断熱を図るなど、寒冷な気候に対処するための特異な特徴を備えた大学宿舎」（文化庁文化審議会答申より）ということで、周囲の環境に溶け込んだ佇まいの価値が認められました。

登録以前から、職員や近隣住民ボランティアにより、毎年、外壁に柿渋を塗るなどの保全策がとられており、近年は、自然観察会などの社会貢献活動の拠点として、大切に使用されています。

人間系　ラミチャネ・カマル准教授、国際青年会議所（JCI）「2018年　世界の傑出した若者たち10人」に選出

人間系障害科学域のラミチャネ・カマル准教授（教育開発国際協力研究センター（CRICED））は、学術的リーダーシップとその貢献が認められ、国際青年会議所（Junior Chamber International, JCI）が選出する「The Ten Outstanding Young Persons of the World 2018」（2018年 世界の傑出した若者たち 10人）の1人に選ばれました。

嘉納治五郎・金栗四三　特別展

日本初のオリンピック選手となった金栗四三、そして彼を見出し、その後も深くオリンピックと関わることとなった嘉納治五郎。日本のスポーツ教育を切り拓いた、本学ゆかりの2人を中心に、本学の歴史を振り返る特別展を1月22日からおよそ1年にわたり、学内各所で開催します。

期間：2019年1月22日～12月25日
会場：筑波大学（体育ギャラリー、総合交流会館、筑波大学ギャラリー、東京キャンパス）、BiViつくば サテライトオフィス
主催：国立大学法人筑波大学
協力：茨城県、熊本県、玉名市、和水町、南関町、文京区
後援：つくば市

※詳細は筑波大学ホームページをご覧ください
https://www.tsukuba.ac.jp/

茗渓学園だより

学寮に新棟（共用棟）竣工

学寮敷地内に風呂・シャワー施設（共用棟）が新築されました。

学校創立時からの建物で40年が経過し、配管や浴室タイルなどに経年劣化が見られ、食堂厨房の真上に位置していることから、漏水などが不安視されるようになっていました。加えて、通学生も寮生活を体験する「短期入寮行事」時の混雑ぶりや、女子風呂が小さい造りとなっていて使い勝手が悪かったこと、生活空間である寮と食堂棟が道路（公道）で隔てられているなど、いくつもの問題を一挙に解消させるため、学寮敷地内に新しく建てることにしたものです。

本校の寮生は、開校後5～10年頃が最大数で450名を超える数でした。その後、電車やスクールバスなど通学の便が改善されて通学生の比率が増し、寮生は100人を割り込むくらいに減少していました。しかしここ数年、寮生活を体験させたいという希望者が増加し、徐々に増加しています（今年度は150名）。

右が共用棟。１階に浴室２階にシャワー室。通路を挟んで左に高校男子寮、奥に中学男子寮が見える。

寮は、本校教育の独自性を表現するものであり、寮生活を通して生徒たちは貴重な体験をしています。教育的価値の高いこの寮生活を広く生かすために、もう少し寮生数を増やしていこうと計画しています。それを進めるため、古くなった施設設備面の改善を行っています。昨年度からは、外国人留学生も入学・入寮し、寮での日常生活がグローバルな活動空間となっています。

国際交流・中南米の高校生来校

この交流活動は、科学技術振興機構が行う事業「さくらサイエンスプラン」によるもので、中南米4か国（メキシコ、アルゼンチン、チリ、ペルー）の高校生24名が本校に来校し、英語、理科、数学の授業に参加するなどの交流が行われました。

中南米の高校生は9時過ぎに到着し、オリエンテーションの後、3時間目は2グループに分かれて英語の授業に参加し、4時間目は3グループに分かれて生物、物理、数学（IB課程）の授業に参加しました（それぞれ高校2年生の授業）。授業のあと、昼食も共にして交流を深める時を過ごしました。

英語の授業では、ゲームを楽しみ、和んだ雰囲気の中で、それぞれが次々に質問をし、積極的かつ活発な会話の弾む交流になっていました。理科、数学の授業では、それぞれの国の学習内容について情報交換が行われていました。本校では国際交流の機会を積極的に設けていますが、今回のように中南米から大勢の高校生をお迎えするのは初めてのことでした。短い時間でしたが、貴重な体験となりました。

楽しく交流し笑顔で記念撮影
（11月27日会議室前にて）

ユースオリンピック（ラグビー競技）で銅メダル

第3回ユースオリンピック競技大会2018ブエノスアイレスのラグビー競技に、本校高校3年の植村陽彦君が日本代表選手として出場し、銅メダルを獲得してきました。同大会は、10月にアルゼンチンのブエノスアイレスで開催され、日本からは23競技91名の選手が派遣されていました。

ラグビー競技は、7人制で行われ、日本チームは大学1年生と高校3年生からなる12名の編成でした。各大陸を代表する6カ国によるリーグ戦と順位決定戦が行われました。日本はアジア予選を勝ち上がってアジア代表としての出場でした。優勝は開催国アルゼンチン、準優勝がフランス、日本はラグビー強豪国南アフリカを破って第3位、素晴らしい結果でした。

今回大会での日本のメダル獲得数は、金16、銀14、銅14、過去最多の好成績だったということでした。ラグビーにおいては、本校植村君を含め今回出場の若い選手達が、2020年東京オリンピックの代表選手選考に食い込み、日本ラグビーの底上げに貢献してくれることと思います。期待が膨らみます。

茨城県教育庁保健体育課を訪れ銅メダル獲得の報告をする植村君。保健体育課長から国際試合出場の奨励賞をいただいた。（11月27日県庁・保健体育課にて）

部活動など結果報告（9月～11月）

◎高校ラグビー部：7年連続24回目の全国大会出場（東大阪市花園ラグビー場、Bシードとなり2回戦12月30日が初戦）。**福井国体**結果1回戦佐賀県に敗退。

◎中学ラグビー部：第38回東日本大会出場3年連続17回目の優勝目指す。

◎美術部：茨城県芸術祭美術展入選5名・入賞1名、県内の一般成人作家が出品する展覧会、本校生も毎年チャレンジ出品してきたが、入選・入賞6名は初。茨城県近代美術館で12月開催の展覧会に展示された。

◎科学部化学班：「つくば科学フェスティバル賞」受賞。「つくばサイエンスコラボ2018」に、「エコカイロを作ろう」というテーマで出展し受賞する（出展80団体中）。

【茨城県高校総合文化祭】写真の部で第1位、全国総文祭出場。**書道の部**は大賞受賞、全国総文祭出場。総文祭2019は佐賀県開催。

桐の葉のつどい　同期入学、または同好のみなさんの集まりを紹介したものです。

◆体育学部 体育学科 昭和46年度入学 同期会

と　き　平成30年10月27日（土）
ところ　機山館

卒業して40年余り、定期的に同期で集まっている部や研究室はありましたが、体育学科全体での同期会は初めでした。参加者は47名（二次会からの参加者を含めると49名）。すぐに思い出せる仲間もいれば、最初は名札で確認する人も…。でも話し始めると、すぐに大学時代にタイムスリップ、懐かしい話や卒業後の職歴に話の花が咲き乱れました。素敵な時間でした。（文責：柳久美子）

◆東京教育大学文学部英文科 昭和34年卒業生同期会

と　き　平成30年11月12日（月）
ところ　KKRホテル東京（東京都千代田区大手町）

ロングセール記録を更新中の『思考の整理学』の著者外山滋比古先生の95歳の誕生日を祝って６年ぶりに同期会を開催しました。私たち入学当初36名。後に学士入学等を加えて総勢43名が担任の故一氏齋藤美洲、故安井稔、外山滋比古の３先生から卒業まで指導を受けました。ご出席の外山先生は当時の各クラスの状況とわが英文科教室が研究・教育の両面で異彩を放っていたことなどを語られるとともに、シニア世代にあって大事なことは“楽しく生きること”と助言をいただきました。次いで、各同期生から卒後の動静や現況などの報告がありました。（代表幹事・文責：古川稀久）

◆平成30年度東茗会例会

と　き　平成30年11月25日（日）
ところ　池袋西口「はなの舞」にて

東茗会は東京高等師範学校、東京文理科大学、東京教育大学、筑波大学で東洋史を専攻し、都内の学校に勤務する教員とOBの親睦会です。ここ数年、筑波大学出身の出席者が東京教育大学出身者を上回るようになりました。それでも毎年11月に開かれる例会では、世代を超えていつも学生時代の昔話や勤務校の話題、さらには退職後の海外旅行の体験談で楽しく盛り上がっています。

（文責：浦部利明）

「桐の葉のつどい」の掲載について

以下の要領で写真と原稿をお寄せください。

（写真）フィルムカメラ、デジタルカメラのいずれで撮影したものでも結構です。紙焼きでも、デジタルカメラの場合はデータをメールでお寄せいただいても結構です。

（文章）グループの名称、お集まりになった「とき」「ところ」を別項にして、必ずお書き下さい。会の模様を紹介する文章は31文字×５行以内でお願い致します。

桐の葉のつどい

同期入学、または同好のみなさんの集まりを紹介したものです。

◆人文学類４期生６クラス還暦クラス会

と　き　平成30年９月15日（土）
ところ　茗渓会館あけぼのの間

昭和52年４月入学の筑波大学人文学類６クラス、通称「じんろく」のクラス会を、担任の金原礼子先生をお招きして茗渓会館で開催しました。アラウンド還暦の同級生19名のうち９名が参加し、当時の写真などお宝を持ち寄っての昔話、近況報告など大いに盛り上がりました。次は人文学類４期の同窓会を準備しています。

（幹事：大倉　浩）

◆昭和33年 東京教育大学教育学科入学 クラス会

と　き　平成30年10月４日（木）～５日（金）
ところ　静岡県焼津市「松風閣」

平成14年から毎年続けてきた一泊のクラス会を平成とともに終了する。「終りは新たな始まり」で、2019年から日帰り可能なクラス会となる。仲良きことは美しい。これに相応しい氏名（使命）を帯びた新美氏が幹事となり、2019年10月３日（木）12時、会場はKKR（東京駅から徒歩15分、毎日新聞社手前）に決定。多くの参加を待ち望んでいます。

（文・写真：松澤紘一郎）

◆茗総33会（昭和33年総合農学科卒）

と　き　平成30年10月16日（火）
ところ　品川シンガポールシーフードレパブリック

卒業後60年、今年も浮世に残された元気老人８名が東京品川に集った。再会を安堵し近況を語り合いながら、明日の活力を蓄える楽しいひと時であった。心身の健康と、来年の再会を約束し会を閉じる。

（写真：坂本、文責：伊東）

◆昭和39年３月東京教育大学総合農学科卒同窓会

と　き　平成30年10月24日（水）～25日（木）
ところ　ハートピア熱海

相模国唐浜で発見された神鏡を祀る伊豆山神社に隣接するホテルで、９回目の「学生時代を懐かしむ会」を過しました。翌朝は神社境内にある郷土資料館を訪れ、重要文化財や江戸時代の古絵図、絵馬の謂れを職員から熱心に聞き入っていた仲間の姿が印象深かったです。

（文責：川田孝一）

◆教大体育学部昭和34年卒業女性の会

と　き　平成30年10月26日（金）
ところ　渋谷エクセル東急

今回で３年連続の集いです。元気な12名の面々が揃いました。歌曲で全国大会に出場した人、太極拳やテニスに精進する人、絵画やちぎり絵を美術展に出品する人、永年の研究を著書にまとめた人等、それぞれが「今」を充実して過している様子がうかがわれました。健康管理を合言葉に、来年の再会を約束して散会しました。

（文責：築地彌生）

◆農林学類３期生会

と　き　平成30年10月28日（日）
ところ　嘉ノ雅茗渓館

年１回集まるようになり、今年も集まりました。今年は、現在生物資源学類長をやられている茂野隆一さんが来られて、筑波大学の状況を伺うことができました。総勢17人の参加となり、あと30年は集まりたいね、という話が出ました。また、来年は筑波で会いたいとの話も出ました。

（写真：宮越（佐久間）リカ、文責：渡邉（草間）悟）

『四万十川　水の女～ぬしが難儀にゃ仕様ない』

著　　者：永澤　正好（39年教大史論）
本の大きさ：B6判　全396頁
発　行　所：八千代出版（株）
発行年月日：２０１７年12月25日

四万十川流域に生きた一人の女性への聞書によって、昭和前半期のこの地域の女性の暮らしとことばをつづる。「ぬしが難儀にゃ仕様ない」のことばには、日々の水汲みや山田の苦労、舅と姑に仕える嫁の避けられない現実を、わが子のために耐え抜く意地と底力が秘められていた。その過酷な暮らしを知ることは、グローバル化経済と都市型消費文化への問いかけ、女性の地位を学び知るきっかけとなろう。ことば（方言）の発音の違いなども丁寧に表した文章からは、地域の暮らし・民族のことばの思いがけない広がりが伝わってくる。（紹介ビラから）

目次概要
第Ⅰ部　米子さん昔語り
第1章　難儀な目におうた
第2章　里の暮らしと嫁の苦労―九十三歳―
第3章　夢に見る―九十九歳―
第Ⅱ部　人と自然とことばと暮らし

（茗渓会事務局）

『働き方改革をすすめる「ホワイトカラー資格」』

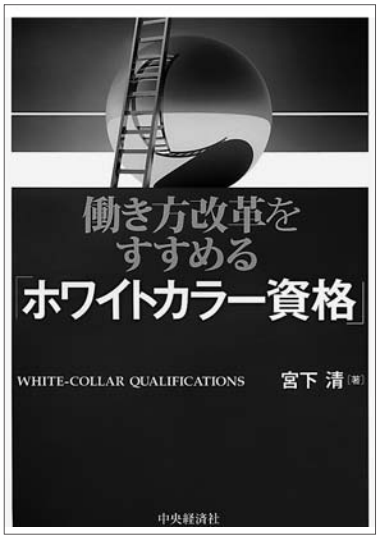
著　　者：宮下　清（54年筑一社）
本の大きさ：A5判　全205頁
発　行　所：中央経済社
発行年月日：２０１８年２月10日

これは組織で仕事をする方々の仕事力を社会的に認定する「ホワイトカラー資格」について、これまでの研究成果に新たな考察を加え完成させた本です。働き方改革が求められる現在、ホワイトカラー資格により評価の社会化が図られ、ホワイトカラーが自らの働き方に主体性を取り戻すことを願いつつ執筆しました。

読者として想定している組織のホワイトカラーの方々は仕事力を高めたいと願い、経験を積んで仕事を遂行する能力や知識を高め、後輩の指導もされることでしょう。そんな時、仕事をする力を向上させ、その成果を社会的に認定する制度が「ホワイトカラー資格」です。

ホワイトカラーが自らの職務経験を資格を通して仕事力とし、その力を広く高めていただきたいと願う次第です。そうすることで職務の専門性と主体的なキャリアが得られ、より充実した働き方が実現できると思います。

（著者記）



『ヨーロッパ観光事情　まち歩きの楽しみ』

著　　者：秋山　秀一（50年教大院修地理）
旅行作家・元東京成徳大学教授
本の大きさ：A5判　全160頁
発　行　所：新典社
発行年月日：２０１８年２月９日

リスボン、プラハ、ブダペスト、トレド、ドレスデン、バーデン、タリン、リガ、スプリット、ミハス、ストラスブール、フィレンツエ、セビリア、ジュネーブ、アヴィニョン、マルセイユ、ルクセンブルク、カルロヴィ・ヴァリ…。これらヨーロッパの魅力ある24都市の最新の観光事情とまち歩きの楽しみ方について、著者が撮影した写真とともに臨場感をもって語るように記されている。著者は海外渡航歴200回、90を超える国と地域を訪れ、取材、執筆活動に専念。今も、旅を続けている。

本書はちばぎん総合研究所発行の月刊『マネジメントスクエア』に連載中の〈旅の達人が見た　世界観光事情〉を単行本化したもの。あたかもその場所を実際に歩いている、そんな気分になり、異文化理解、国際理解の一翼を担っていただくことができれば…。

著者は、日本外国特派員協会、日本エッセイスト・クラブの会員。

（著者記）

追　悼　録（敬称略）

逝去会員氏名・卒年科・逝去年月日・
地域・続き柄・遺族氏名

平岡　敏夫	筑波大学名誉教授 東京	30・3・5	妻　平岡　豊子
細川　征一	18理一 北海道	30・4・6	長男　細川　一實
和氣　芳雄	19体一 栃木	30・2・5	子の妻　和氣　映子
佐藤義太郎	19体三 東京	30・7・7	長男　佐藤　一秀
山﨑　忠志	19体専 岡山	28・8・24	長女　山﨑美保子
月瀬　隆治	19体専 東京	29・5・30	長男　月瀬　　東
等々力　肇	23文二 東京	30・11・3	長男　等々力　充
芦葉　浪久	24理二 東京	30・10・7	妻　芦葉　冨子
栗原　貞雄	24理三 栃木	30・9・4	次男　栗原　直人
中保　　進	25大国 愛知	30・1・23	妻　中保　政子
都原　宗博	25体 宮崎	30・11・24	次男　都原　久典
鈴木　祐一	25体 東京	29・8・21	長女　鈴木　敬子
芦谷　　清	25文図養成所 東京	30・6・4	妻　芦谷美智子
井内　　宏	26理二 東京	29・4・6	妻　井内　尚子
田中　　修	26芸 東京	29・8・25	長女　加藤　圭子
竹内　久一	27文二 神奈川	29・10・29	長女　藤家　牧子
中嶋　正躬	28大国史 鳥取	30・10・18	長女　太田　真理
鈴木　恒雄	28大英 東京	29・8・26	妻　鈴木　法子
松浦　　昇	29教大国 東京	30・2・12	妻　松浦　けい
平野　勝重	29文図養成所 長野	30・8・1	妻　平野　京子
池田　稔明	31教大健 東京	30・9・17	妻　池田　順子
森岡　理右	32教大体 東京	29・8・11	次男　森岡　洋右
芦谷　源治	33教大経 千葉	30・10・14	妻　芦谷千嘉子
飯塚　　峻	35教大総農 神奈川	30・4・4	妻　飯塚　義子
桜井　幸弘	36教大心 千葉	30・9・7	妻　桜井　泰子
西村　長恭	37教大英 宮城	30・5・7	長男　西村修太朗
稲葉　伸夫	37教大農 千葉	30・6・10	妻　稲葉　邦子
山本　健剛	38教大教 神奈川	30・1・16	妻　山本　啓子
大矢　三郎	38教大体 新潟	30・10・5	妻　大矢　玲子
井深　信男	40教大心 滋賀	29・11・19	妻　井深　允子
棚田　亮夫	53筑一自 長野	30・9・18	妻　棚田　亜紀
鹿児島雅志	55筑二農 東京	30・3・18	兄　鹿児島武志

Service Safety Sincerity
あなたのそばに。セキショウグループ。

SEKISHO
Energy for your Life

当社は「一般財団法人 関彰育英会」を通して、筑波大学大学院博士後期課程の院生に、研究支援として奨学金の支給を行っております。

関彰商事株式会社
代表取締役社長　関　正樹（学校法人 茗渓学園理事）
つくば本部／茨城県つくば市二の宮 1-23-6　TEL 029-860-5151
茗渓会担当：常務執行役員人事部長　岡本　俊一
〈昭和56年　第一学群 社会学類 卒業〉
http://www.sekisho.co.jp/

安全に、快適に、正確に
OZONE 大曽根タクシー株式会社
取締役社長　塚本　一也
（平成3年環境科学研究科修了）

☆お迎え料金無料
☆カード利用 OK!
☆貸切バス事業者より
　安全性評価認定(★★★)されました

〒300-3261 茨城県つくば市花畑3丁目19-4
TEL 029-864-0301
FAX 029-864-4727
メールアドレス http://www.taxi.e-tsukuba.jp
フリーダイヤル 0120-000-302
各営業所に通じます

平成30年秋の叙勲 おめでとうございます（敬称略）

旭日中綬章

舩山　龍二	37教大地	（埼　玉）

瑞宝中綬章

高野　清純	29教大心・32院修教心	（筑波大）
湊　吉正	29教大言	（筑波大）
森　直幹	36教大体	（東　京）
寺田　邦昭	36教大健	（愛　知）
船越　正康	36教大体・44院修体	（大　阪）

瑞宝小綬章

鈴木　弘文	46教大米	（福　島）
五味田　優	47教大国	（茨　城）
吉田　洋幸	47教大植	（茨　城）
佐藤　和憲	44教大健	（千　葉）
須藤　健児	30教大体	（東　京）
小峯　英夫	31教大健	（東　京）
鳥山　勇	48教大数	（愛　知）
折戸　善信	45教大体	（兵　庫）
藤原　邦有	44教大東史	（福　井）
大石　英幸	30教大体	（福　岡）
戸田　卯康	34教大物	（長　崎）

瑞宝双光章

田中　和雄	43教大体	（栃　木）

広　報

教職受験対策研修会

教職員採用試験を受ける筑波大学生のための研修会を今年も茗渓会と筑波大の共催で次の要領で開催いたします。

期　間　平成31年2月16日（土）～17日（日）
会　場　筑波大学大学会館　体育芸術群棟教室
定　員　50名（2日間参加できる方）
参加費　7、000円のところ茗渓会が5、000円補助
申込み　平成31年1月10日（木）～2月1日（金）茗渓会筑波事務所にて
その他　3月及び8月も研修会を実施する予定です。

訂　正

前号（平成30年秋号）で誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

P18「占春園再生プロジェクト協力者ご芳名」
上段、後ろから3行目
（正）吉尾　健太郎
（誤）吉雄　健太郎

表紙の言葉

沖縄茗渓会　門前　晃

沖縄茗渓会は2017年に設立された全国で最も新しい地域茗渓会支部です。沖縄茗渓会の設立によって、全国の都道府県に地域茗渓会支部が整えられました。沖縄茗渓会は、しばらくは会員の親睦・情報交換を主な目的に年1回総会、懇親会を開催しています。参加者はまだ少ないのですが、輪を広げていくよう努めています。

沖縄県は島嶼県と言われるように、多くの島々から成り立っています。沖縄島が沖縄県で一番大きな島ですが、周辺にはいくつかの島々があります。沖縄島の北部には写真の古宇利島があります。かつてのサンゴ礁が隆起してできた島です。島の周辺の海にはサンゴ礁が発達し、コバルトブルーのきれいな海が広がっています。島であるがゆえの生活苦（方言で「島ちゃび（島痛み）」と言われています）があり、「島ちゃび」を解消する目的で、離島に橋が架けられる事業が進められています。写真のように大きな橋が架けられており、このような橋を通って人、物資だけでなく電気、水も送られています。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

◇茗渓創基150年事業のひとつの「占春園再生プロジェクト」の具体的な動きとして、この正月明けから2月にかけて、子供向け公開講座、かいぼり、泥上げイベントなどが予定されています。それらの様子は春号で皆さまにお知らせする予定です。

◇先般、江田理事長がブロック代表者会議でされた講話「**茗渓人として知っておきたい噺**」を別刷保存版としました。お読みいただけると幸いです。

今年が皆さまにとってより良い年となりますよう祈念しております。

お詫び

今年度コンビニ扱いで入金された会員様には、システムの不具合に因り、昨年12月に納付書が再送されましたことをお詫び申し上げます。

平成31年1月15日発行
発行　一般社団法人　茗　渓　会
茗渓会事務局・大塚事務所
112-0012　東京都文京区大塚一-五-二三
TEL　〇三-三九四一-〇一三六
FAX　〇三-三九四一-七六七四
E-mail info@meikei.or.jp
URL http://www.meikei.or.jp
郵便振替記号番号　〇〇一五〇-二-四九七七
筑波事務所
305-8577　つくば市天王台一-一-一
筑波大学・大学会館内
TEL　〇二九-八五〇-一〇四四
FAX　〇二九-八五〇-一〇四五
E-mail tsu3jimu@meikei.or.jp
印刷　東京都文京区関口一-三九-一〇
山浦印刷株式会社

-筑波大学の知の発信-
筑波大学出版会
http://www.press.tsukuba.ac.jp/

3月6日刊行予定　フルカラー
蟲愛(むしめ)づる人の蟲がたり
筑波大学山岳科学センター
菅平高原実験所 編
町田龍一郎 監修
紙版 ISBN 978-4-904074-54-1
電子版同時発売

筑波山地域
ジオパーク認定
筑波山から学ぶ
「とき」を想像・創造する

前川 啓治 編
2900円＋税
A5判 194頁
ISBN 978-4-904074-33-6

オリンピックの
招致にも尽力
気概と行動の教育者
嘉納治五郎

生誕150周年記念
出版委員会 編
2800円＋税
A5判上製 388頁
ISBN 978-4-904074-19-0

カラー対応
紙版・電子版
もっと知りたい！
「科学の芽」の世界
PART 6

「科学の芽」賞
実行委員会 編
2200円＋税
B5判 220頁
ISBN 978-4-904074-53-4

発売：丸善出版株式会社
TEL:03-3512-3256
FAX:03-3512-3270
https://www.maruzen-publishing.co.jp/

株式会社 阿部兄弟建築事務所
http://abeoffice.co.jp

〒101-0032
東京都千代田区岩本町1-3-9 高木ビル
東京ワークライフバランス認定企業
代表取締役 荒井　豊人（昭和57 筑基工）
TEL 03-3866-4181　FAX 03-3866-4120

経営・労務・年金etc. コンサルタント
福岡経営労務事務所
〒125-0042 葛飾区金町3-27-3
TEL 03(3607)0551　FAX 03(3607)0551
所長 社会保険労務士 福岡 一雄（32教大法政）

「美味しい」の、その先までを考える。
―私たちは、食に関する戦略提案型メーカーです。―
食の調達・加工から新商品の企画開発、供給まで。
戦略パートナーとして、お客様の期待を超える提案をします。
株式会社 フーズプランナー
〒160-0022 東京都新宿区新宿一丁目２０番１３号
花園公園ビル８階
TEL: 03(5363)6233　FAX: 03(5363)622
http://www.foods-planner.co.jp
常務取締役 田中 修（昭54年 第二学群 農林学類卒）

JUWA
株式会社 十和観光
代表取締役社長 井坂信洋
URL http://www.juwa.com　E-mail:travel@juwa.com
〒300-2451 茨城県つくばみらい市筑輪２５４
TEL 0297(52)１２２１　FAX 0297(52)１２２０

スポーツ＆起業家＆企業人「つくばウェイ」
TSUKUBA WAY プロジェクト
～茗渓・筑波OB・OGの活躍を集約!!～
http://tsukubaway.com/
株式会社 KTAJ
代表取締役 藤田 文武（体育専門学群 2004年卒）

FXC
Future X Communications
FXC株式会社 https://www.fxc.jp/
当社は光通信機器やイーサネットスイッチ等のネットワーク機器を開発・製造し、各地の公立高校始め、官公庁、企業等に多数納入実績がございます。
創業者：代表取締役社長執行役員 谷輪 重之（'93筑修経営）

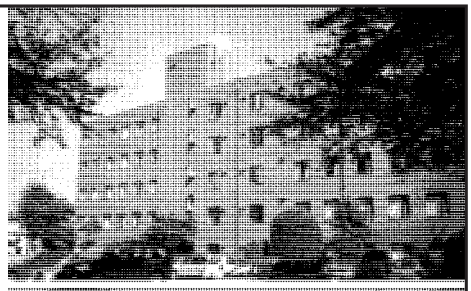
印刷・製本までトータルに対応
株式会社 ケーエスアイ
東京営業所 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-3-1
東京フジビル502号室
TEL 03-5357-1668　FAX 03-5357-1669

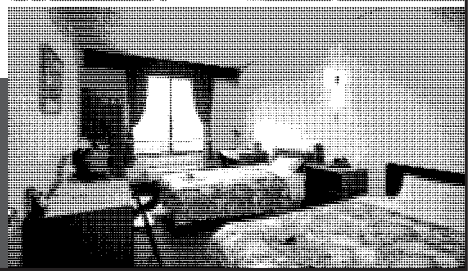
HASEKO
株式会社 長谷工 コーポレーション
〒105-8507 東京都港区芝２丁目32番１号
電話 03(3456)1578
常務執行役員 楢岡 祥之（昭57筑社工）

つくばでの宿泊・研修に―

ご家族で、お仲間で
最大収容180名、お一人3,700円から
茗渓会員とご家族に割引あり
研修セミナー・サークル発表会・各種会議・学習合宿・部活動合宿に
シングル145室ツイン５室和室５室／研修室２室（120・40名）
和室も研修室として利用可（20畳、10畳）
館内食堂《こうせい》でパーティ・懇親会等（数名から80名まで）

アクセス
秋葉原駅からつくばエクスプレスで45分「つくば駅」下車
●バス／「筑波大学循環」３つ目「筑波メディカルセンター前」下車
徒歩８分●つくば駅からタクシー／５分





一般財団法人筑波学都資金財団
筑波研修センター
〒305-0005 茨城県つくば市天久保 1-13-5
TEL 029-851-5152 ／ FAX 029-851-8886
http://www.meikei.or.jp/~center　e-mail : center@meikei.or.jp

(株)ブライダルは
筑波大学同窓会会員の
皆様の「結婚」を応援します。

Bridal

結婚

40年の実績

(株)ブライダルは今まで法人福利厚生、官公庁、各大学会報誌などで、数多くの方々の結婚のお世話をさせて頂いております。少子化問題にも『結婚』という形で社会に貢献できる企業を目指しており、特に筑波大同窓会の皆様には平成17年より「筑波大コース」を設け、多くの方にご利用頂いております。この「茗渓」を見たとおっしゃってくだされば、茗渓会の皆様は登録料100%OFF にてご入会頂けます。

筑波大コース

登録料
100%OFF

ブライダルコース
¥226,800 ▶ ¥194,400 etc.※

エクセレントコース
¥388,800 ▶ ¥356,400 etc.※

※価格は会員サポート費・月会費(12回分)の税込総額です。

お問い合わせ
(月曜定休)
フリーコール 0120-415-412

詳しくはホームページをご覧ください。
(株)ブライダル 検索
ホームページ http://www.bridal-vip.co.jp

1978年創業
株式会社ブライダル
東京本社 〒163-0528 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル28F
Network／東京・湘南・豊橋・名古屋・大阪

広告を募集しています。

事務局までご相談ください。

一般社団法人　茗 渓 会
〒112－0012
東京都文京区大塚１丁目５番23号
電　話　03(3941)0136
ＦＡＸ　03(3941)7674
eメール　info@meikei. or. jp
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　http:www. meikei. or. jp

桜美林大学
J. F. Oberlin University

リベラルアーツ学群 / 健康福祉学群
ビジネスマネジメント学群 / 芸術文化学群
グローバル・コミュニケーション学群（2016 年開設）

桜美林学園 理事長・学園長 佐藤 東洋士
学長 畑山 浩昭
入試事務室相談役 川田 孝一（昭 39 教大総農）

【お問合せ先】
〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758
桜美林大学インフォメーションセンター
Tel.042-797-1583 E-mail:info-ctr@obirin.ac.jp

問いを創る授業

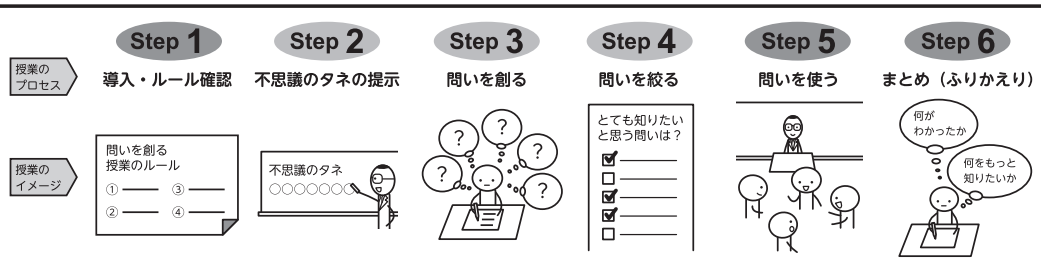
子どものつぶやきから始める主体的で深い学び

鹿嶋真弓・石黒康夫 編著　　B5判176頁　本体2,400円+税

問いを創る授業ってなに？

主体的・対話的で深い学びを実現する授業の具体策です。
「なぜ?なに?知りたい!」という子どもの疑問や興味を大切に，
自ら考え，創造的に学ぶ力をはぐくみます。

流れは6ステップ



おもな目次

第１章　これからの授業はこう変わる
第２章　子どもの言葉で問いを創る授業とは？
第３章　子どもの言葉で問いを創る授業の進め方
第４章　不思議のタネの創り方
第５章　子どもの言葉で問いを創る授業の実際
第６章　子どもの言葉で問いを創る授業　実践事例集
小学校編／中学校編

〒112-0012 東京都文京区大塚1-4-15
http://www.toshobunka.co.jp/
図書文化
TEL. 03-3943-2511 FAX. 03-3943-2519
ブックライナーで注文可 0120-39-8899

Meikei–
Making
the
Difference

Meikei High School

茗溪学園中学校高等学校

＊茗溪学園は 1979 年に茗渓会の百周年記念事業で生まれた学校です

◆寮のある学校です
　海外からの外国人留学生も生活しています
◆国際バカロレア IBDP 課程認定校です
◆文部科学省 SSH･SGH アソシエイト認定校です
◆「知識」「体験」「考え方」
　――とことん学び身につけます
◆部活動が盛んな文武両道の学校です

ＳＳＨ活動報告会

「SS研究・個人課題研究発表会」
（後援：筑波大学）開催のお知らせ

期日：平成31年2月28日（木）
会場：筑波大学大学会館
内容：本校高校2年生SS研究および個人課題研究（優秀研究）口頭発表・ポスター発表、ほかに2018年度SSH活動成果報告
一般公開いたします。
（詳細は下記メールでお問い合わせください）

アクセス　つくばエクスプレスTX　つくば駅A3A4出口　バスターミナル4番のりば「ひたち野うしく行」バス、「環境研究所」下車徒歩5分　　または　JRひたち野うしく駅　東口バス乗り場「つくばセンター行」

e-mail　kouhou@meikei.ac.jp（見学等）　entry@meikei.ac.jp（入試等）